

特7

19

十六年十二月

法律大意第二回講義

司法省第七局

三十一日

法律大意第二回講義

一此書ハ佛蘭西法律大博士「ボワソナード」氏司法省ニ於テ明治十六年九月募集セシ法學生徒ノ爲メニ民法草按ノ講義ヲ開クニ際シ生徒ヲシテ先ツ法律ノ原理大要ヲ了解セシメンカ爲メニ講述セシ所ヲ筆記シタルモノナリ

一此書ヲ第二回講義ト題シタルハ「ボワソナード」氏彙ニ明治十三年募集ノ生徒ノ爲メニ法律ノ大意ヲ講シ既ニ刊行シタル者アルヲ以テナリ

明治十六年十二月

譯者 識

課第一資料  
27.7.6.  
調查立法考査局

J 1534



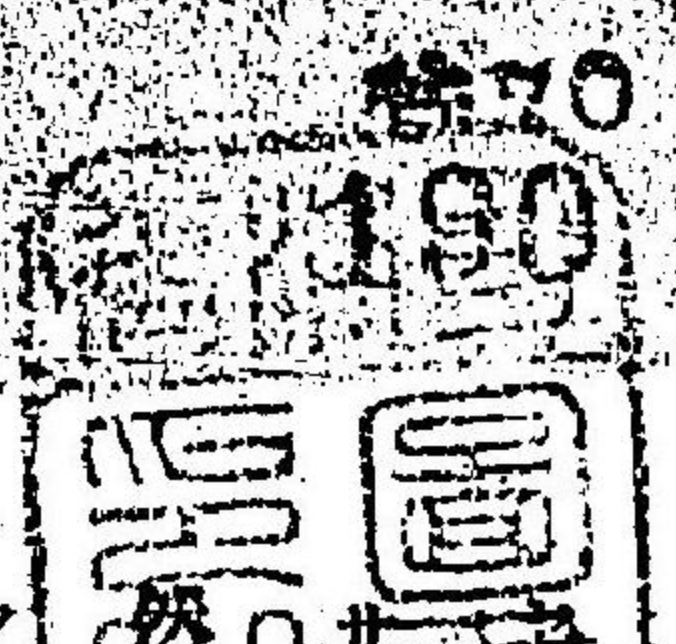
第一講

明治十六年

一編 勇三郎

同譯

市川亮功



諸君  
此ハ余ハ先ツ法律ノ何者タルヲ説カ  
所以ノモノハ爾來專ラ法律學ヲ研究  
ハ之レヲ講説スルニ當リテ一箇ノ大困難ニ遭遇スル者  
アリ而シテ其困難タル他ニ非ラス諸君ト余輩トノ言語ノ同シカ  
ラサル是レナリ縱令余ト諸君トノ間ニハ言辭ヲ通譯スル者アリ  
テ余ノ説ク所ヲ諸君ニ了解セシムヘント雖モ余ノ如何ナル事ヲ  
説クヤ通譯者モ之レヲ豫知スルヲ能ハス加之學術中ニハ容易ニ

説クヤ通譯者モ之レヲ豫知スルヲ能ハス加之學術中ニハ容易ニ

理解セシメ得ルモノアルモ又頗ル困難ナルモノアリ法律ノ如キ  
即チ是レナリ現ニ佛蘭西ニ於テモ屢次學者ノ他ノ諸學者ヲ駁撃  
スルコトアルハ是レ概チ其書中ノ用語ニ關シタルモノナリ然ラバ  
即諸君ハ又タ同一ノ語ト雖モ尙ホ之レヲ用ユルニ當リ困難アル  
コトヲ了解セラル可シ

法律ノ語ニハ各々一定ノ意義アリト雖モ又タ同一ノ語チ他ノ意  
義ニ換用スルコト數々之レアリ是レ蓋シ法律上ノ語ハ多ク往古羅  
馬ノ法制中ヨリ傳來シタルカ故ニ其一部ハ羅馬ニ於ケルト同一  
ノ意義ヲ存スルモ又タ多少ノ變更ヲ受クルモノアルカ故ナリ故  
ニ余ハ漸次講義ヲ爲スニ當リ其由來及ヒ確定ノ意義ヲ説明シ意  
義ノ變更ヲ示ス可シ而シテ余カ通辨者タル一瀨氏ハ直ニ之ヲ口譯  
シテ以テ諸君ニ傳フルヲ信スルナリ然レモ其之レヲ譯スルニ當

テモ又タ數多ノ新語ヲ創設セサル可カラサレハ實ニ容易ノ業ニ  
非ラス何トナレハ是即チ向後日本法律ノ定語タルヘキモノナレ  
ハナリ

右ニ説明シタル事柄ニ付キ注意スヘキハ全ク諸君チシテ右等ノ  
困難アルモ爲メニ落膽セシメサルニ在リ何トナレハ若シ困難ナ  
ル語ニ遭遇スル時ハ他ニ之レヲ形容シテ講説ス可キカ故ニ諸君  
ハ遂ニ之レヲ了解スルニ至ル可ク又タ諸君ノ學友中既ニ理解シ  
タル者アラハ又之レヲ諸君ニ通知ス可キチ以テナリ

抑モ法律ノ學タルヤ理論上ノ學即チ心意ノ學ニ屬シ醫學又ハ天  
體學等ノ如キ外部ノ學即チ有形上ノ學ニ反對スルモノナリ蓋シ  
心意ノ學トハ凡ソ人ノ智能ニ關スルモノヲ云フナリ日本國ノ如  
キ孔子ノ學ヲ修メ得ル國ニ於テハ余ハ別段道德ノ何モノナル

四

一チ説明スルニ及ハス諸君ハ大略之ヲ研究了解セラレタル可シ  
抑此道德モ又ターノ心意ノ學ニシテ而シテ此道德學ノ一部分タ  
ル可キ「フヒロヅフヒ」(哲學)ト稱スル所ノモノハ理論ノ如何及ヒ其  
規則ヲ學ブモノナリ孔子ノ説キタル所ノモノハ決シテ右ニ説  
明シタル「フヒロヅフヒ」ニ非スシテ眞ノ道德學ナリト信スルナ  
リ

既ニ説明シタルカ如ク用語ノ法ハ頗ル困難ナルモノナリ今ヤ此  
コ之レカ適用ヲ示スヘシ

「フヒロヅフヒ」トハ賢哲ノ愛「アムール、ド、ラ、サシユエツス」ノ義ニシ  
テ賢哲ノ愛トハ警誠ノ道「シアンソド、ラ、プリユダシス」チ云フナリ  
是レ佛國ニ於テ「フヒロヅフヒ」ナル語ヲ學生ニ講説スルニ當リ  
學者常ニ之ニ與フル所ノ解義ナリ茲ニ愛賢ト云フ所ノモノハ即

チ道德ノ本務ノ遵奉ヲ云フナリ

凡ソ人コハ數多ノ本務アルカ故ニ先ツ之レカ順序ヲ定メサル可  
カラス

余ハ此等ノ事ヲ説クニ先チ先ツ人ハ社會ヲ組織シテ生活セサル  
可カラサルヲ揚言セン或ル學者ノ説ク所ニ據レハ往古ハ人ノ  
孤住シ又ハ其家族ノミニテ生活シタル時代アリタリト然レモ是  
レ普通ノ事ニアラス人類ハ常ニ社會ヲ組織シテ生活セサル可カ  
ラサル者ナリ古來人ノ孤立シテ生活シタル事ハ歷史上人ノ未タ  
見サル所ニシテ全ク誣妄ナル事ナリ然レモ余ハ歷史上唯々二箇  
ノ例アルヲ知ル蓋シ其一ハ一人ノ航海者難風ノ爲メ無人島ニ  
漂流シ數年間一人ニテ生活シタルヲ是レナリ

五

其二ハ第一ノ場合ヨリ一層夥多ナル者ナリ即チ或宗徒宗教上ノ

六

本務ハ獨身生活スルニ在リト誤解シ現社會ヲ離レテ森林中ニ隱遁シ草根木實ヲ食ヒ孤住シタルコト是レナリ此等ノ宗徒ヲ呼テ「テ」ルミートト稱ス諸君ハ此二箇ノ場合ニハ吾人カ共ニ遵奉ス可キ本務ナキコトヲ了解セラル可シ是レ他ナシ航海者ハ其漂流シタル孤島中ニ於テ時期ニ拘ラス隨意ニ銃獵スルコトヲ得可キモ吾人ハ其時期ニアラサレハ銃獵ヲ爲スコト能ハス又々隱遁者ハ行政官廳ナキ所ニ遁世シタルカ故ニ吾人ヲ以テ此等二種ノ者ト比較スルヲ得ス之レニ反シ若シ此二人吾人ト同一ナル地方ニ來リタル時ハ其從來島中又ハ森林中ニ棲息シタルカ如クニシテ生活スルコトヲ得サル可シ即チ隨意ニ銃獵ヲ爲スコト能ハサル等社會萬般ノ規則ヲ踐行セサル可カラス

今ヤ更ニ此等ノ者ニハ道德上ノ本務アルヤ否ヤヲ探究セサル可

七

カラス抑此等ノ者ニハ上帝ニ對スル本務アリヤ曰ク勿論之レアリ余ハ茲ニ上帝ナル語ヲ用ユルモ決シテ宗教ノ事ヲ説クニアラス唯庶民ノ良心ニ感得スル所ノ天神即チ上帝ヲ云フナリ果シテ然ラハ人タル者必スヤ之ヲ尊敬セサル可カラス而シテ前例ノ隱遁者カ森林中ニ遁世シタル如キハ上帝ニ對スル尊敬ノ本務ヲ盡クスカ爲メナルカ故ニ上帝ニ對スル本務アルコトハ別段説明ヲ要セス航海者モ又々神明ノ存在スルハ知ル可キカ故ニ縱令孤島ニ漂流スト雖モ決シテ此念ヲ遺忘セサル而已ナラス却テ其念ヲ増ス可シ何トナレハ社會ヲ離レ孤住スルモ同類ノ以テ依ル可キ者ナケレハナリ然ラハ前段既ニ説明シタルカ如ク此等ノ者ニハ道德上ノ本務アル可キヤ之レヲ知ラント欲セハ先ツ社會ノ本務ト孤住ノ本務トノ如何ヲ研究セサル可カラス

縱令森林中ニ隱遁スト雖此等ノ者ニハ常ニ道德上ノ本務アリ  
 ト云ハサル可ラズ故ニ例ヘハ多量ノ酒ヲ用ヒ酩酊スルハ道德ノ  
 本務ヲ遵守セサル者ナリ人アリ曰ハシ道德上又ハ法律上ニ於テ  
 酩酊ヲ禁シタル所以ノモノハ爲メニ他人ヲ妨害スレハナリ然レ  
 ニ此等ノ者ハ既ニ社會ニ生活セス森林中ニ孤棲スル以上ハ毫モ  
 他人ヲ妨害スルコトナケレハ道德上ノ本務ニ悖戾セス自由ニ酩酊  
 スルコトヲ得可シト然レニ余輩ノ思考スル所ニ據レハ其身縱令森  
 林中ニアリト雖ニ酩酊スルハ道德ヲ害スル者ナリ何トナレハ人  
 酩酊スルキハ畜ニ其身体ヲ傷害スルノミニアラス又タ良知良能  
 ナ停止スレハナリ或ル理論家ハ此等ノ人ニハ自己ニ對スル尊敬  
 アルコトヲ説ケリ是レ蓋シ此等ノ場合ヲ説キタルモノニシテ即酩  
 酊ヲ爲スハ自己ニ對スル尊敬ニ背クモノナリ

今ヤ一層明瞭ナル場合ヲ例示シテ説明ス可シ即チ隱遁者ハ此世  
 ナ厭ヒ自殺スルコトヲ得ヘキヤ余ハ日本ノ事情ヲ熟知セスト雖ニ  
 今日ニ於テハ人民ノ思想一變シテ往古屢次之レアリタル自殺ヲ  
 爲スノ權利アルコトナク又タ之レヲ試ムルコト能ハサルヲ知ル是レ  
 蓋シ人類ノ天性ニ因ルモノナリ故ニ右ノ隱遁者ハ自殺ヲ爲スコ  
 能ハス常ニ其本分ヲ遵奉セサル可カラズ  
 上帝ニ付キ之レヲ論センコ凡ソ人類ニ生命ヲ授與シタル所ノモ  
 ノハ上帝ナルカ故ニ上帝ニ對シテハ勿論本務アリ然ラハ隱遁者  
 ト雖ニ尙ホ上帝ヨリ附與シタル生命ヲ持續シテ之レヲ短縮スル  
 能ハス即チ天命ノ終ルヲ待タサル可カラス  
 曩ニ記載シタル或ル理論家ノ説即チ人ニハ自己ニ對スル本務アリ  
 リト云ヘル説ハ余輩之レヲ採用スルコト能ハス此説ニ依レハ人ハ

己レノ自己ニ對シ遵奉セシムル所ノモノヲ遵奉セサル可カラヌト云フニアリ是レ實ニ不當ナル言ト云フヘシ蓋シ吾人ハ自ラ同時ニ權利者及ヒ義務者タル能ハサレハナリ然レモ尙ホ其所論ヲ採用セシメシカ爲メ左ノ言ヲ覆スルモノアラソ曰ク隱遁者ノ如キハ他日或ハ遭遇ス可キ所ノ他ノ同類ノ爲メ其生命ヲ保存セサル可カラヌト余ハ之レニ答辨スルニ無期ノ刑ニ處セラレタル罪囚ノ例ヲ以テ其非ヲ示ス可シ蓋シ此罪囚ハ終身社會ニ孤立シ決シテ其同類ニ遭遇スルコト能ハスト雖モ尙ホ自殺スルコトヲ得サルナリ

孔夫子ノ説キタル所ノ本務ハ此孤立シタル者ニハ存セサル可シ常ニ社會ヲ組織シテ生活シタル人ニ存ス可シ而シテ此道德上ノ本務ハ世ノ開明ニ從ヒ日々増加スルカ故ニ之レヲ列擧スルハ到

底難カル可シ然レモ左ニ二箇ノ重要ナルモノヲ例示ス可シ

諸君ニハ本校ニ入學シタルヨリ以來既ニ道德上ノ本務アリ(余輩ハ先ツ此例ヲ説キ而シテ道德上ノ本務ヲ總轄スル二箇ノ元則ヲ説キ出ス可シ)例ヘハ諸君中ノ一人怠惰コテ學校ニ出席スルコトヲ欲セス詐テ病ト稱スル時ハ道德上ノ本務ニ反スルナリ何トナレ即チ諸君ヲシテ勉學セシメンカ爲メニ諸君ヲ召募シタル政府ノ厚意ニ違背スレハナリ此場合ニ於テハ決シテ神明ニ對スル本務ニ背戻スルニアラス抑司法省ニ於テ法學生徒ヲ召募シタル所以ノ者ハ決シテ此二百名ノ諸君ヲシテ徒ラニ學問ヲ爲サシムルカ爲メニアラス他ニ大ナル目的アルナリ何ソヤ善良ナル裁判官ヲ得ルニ在リ日本ノ人口ハ實ニ數多ナルカ故ニ又々多數ノ裁判官ヲ置カサル可カラヌ故ニ若シ諸君善良ナル裁判官ト爲ルコトヲ勉

メサル時ハ諸君ハ道德ニ背キ併セテ政府ノ目的ニ違フ可シ  
 今ヤ前ニ説キタルカ如ク二箇ノ元則ヲ説キ以テ道德上總ヲノ本  
 務ヲ包含セシム可シ第一ノ元則ハ最モ古代ニ在リテ且ツ當時人  
 ノ遵奉スル者ニノ羅馬法律ヨリ傳來シタル何人ナモ害ス可カラ  
 ス(羅典語ニテ「子ミテム、レデレー」ト云フ原則是レナリ是レ吾人ノ  
 日常屢次説ク所ノモノナリ例ヘハ人アリ他人ノ善行ヲ知ルト雖  
 モ之レヲ稱揚セス却テ其惡行ヲ爲シタルトテ流布スル時ハ其罪  
 實ニ深シ又タ人ノ惡行ヲ實見シテ之レヲ流布スルト尙ホ罪アル  
 ナ免カレス何トナレハ其惡行ヲ流布スル者ハ他人ヨリ此質問ヲ  
 受ケタルニアラサレハナリ斯クノ如ク道德ノ本務ニ違背スルハ  
 決シテ有的ノ所爲ニ因ルノミニアラス又無的ノ所爲ヲ以テ之レ  
 ナ犯スコアリ例ヘハ平生甲者ト覺察アル乙者丙者ノ介人ニ依リ

將サニ某官ニ登用セラレントスルニ當リ丙者甲者ニ問フテ曰ク  
 乙者ハ平素正直ナル者ニアラサル歟ト甲者默シテ答ヘス是レ此  
 場合ニ於テ默スルハ丙者ノ問ニ向テ不同意ヲ表スルモノナルカ  
 故ニ甲者ハ道德ノ本務ニ違背スル者ナリ故ニ道德ノ本務ヲ犯ス  
 ハ音ニ有的ノ所爲ノミニアラス又タ無的ノ所爲ニ因ルコアルナ  
 リ  
 第二ノ元則ハ己レノ爲シ得可キ善事ハ成ル可ク之レヲ他人ニ  
 及ホス可キト是レナリ例ヘハ前例ノ如ク將ニ某官ニ登用セラレ  
 ントスル者アル時ハ假令人ノ之レヲ質問セサルモ若シ己レノ言  
 能ク其任官ヲ助クルニ足ルヘシト思フ時ハ其正直善行ヲ稱揚セ  
 サル可カラズ又此ニ人アリ既ニ朽腐シ將サニ崩墜セントスル架  
 橋ヲ通過セントスルヲ傍觀シ己レ其朽腐崩墜ノ景狀アルトテ知



ル時ハ之ヲ忠告セサル可カラズ蓋シ是レ吾人ノ本務ナレハナリ  
 今又此ニ人アリテ偶然水中ニ陥リタル時唯ク一舉手一投足ノ勞  
 之レヲ助クルヲ得可キコ之レヲ爲サ、ル時ハ此者ハ道德ニ違  
 背ス可シ然レモ疾風甚烈ニ際シ一漁舟ノ海中ニ於テ覆ラントス  
 ル時傍人之ヲ撞見シ以テ救援スルノ本務アリヤ否道德ハ決シテ  
 其人ノ生命ヲ損害ス可キ事ヲ爲スチ欲セス時トシテハ其一身ノ  
 危険ヲ冒シ之レヲ爲ス者アリト雖是レ俠勇ト稱スル所ノモノニ  
 シテ決シテ道德ノ本務ニ非サルナリ故ニ此場合ニ於テハ「己レノ  
 爲シ得可キ善事ハ之レヲ他人ニ及ホス可シ」ト云ヘル規則ハ一概  
 ニ之ヲ論スルヲ得ス其場合ヲ監定スルハ唯ク其之レヲ爲サント  
 欲スル其人ニ存スルナリ即チ若シ遭難者ヲ助クルヲ得可シト思  
 考スル時ハ充分ノ盡力ヲ爲サ、ル可ラス

抑又貧困者ニ施惠ヲ爲スノ道德上ノ本務タルハ世人ノ曾テ疑  
 チ容レサル所ナリ然レモ財産ノ全部又ハ四分ノ一又ハ三分ノ一  
 チ與フルヲ決定ムルハ是其施惠者ノ考定ニ在リ道德ハ曾テ其額  
 チ定ムルヲナシ

本日ノ講筵ヲ終了スルニ先チ余ハ法律ノ何者タルヲ諸君ニ説カ  
 サル可カラズ然レモ余ハ本日充分ノ時間ヲ有セサルカ故ニ單ニ  
 道德上ノ本務ト法律上ノ本務ト相接近スルヲチ説明ス可シ此ニ  
 夫ノ何人ヲモ害ス可カラズト云ヘル道德上ノ原則ヨリ例ヲ擧ケ  
 シコ此ニ人ヲ殺害シタル者アリ此者ハ單ニ道德ヲ犯シタル者ナ  
 リト云フニ止マル可キヤ否決シテ然ラス此者ハ道德ヲ犯シ猶且  
 法律ヲ犯シタル者ナリ又タ暴行若クハ詐欺ヲ以テ他人ノ財産ヲ  
 奪取スル者モ亦道德及ヒ法律上ノ本務ニ違背シタル者ナリ此等

刑法上ニテ罰ス可キ事實ニ付テハ余ハ悉ク其道德及ヒ法律ニ違背スルコトヲ斷言ス可シ  
 今ヤ民法ニ付キ二三ノ例ヲ示ス可シ  
 此ニ余ノ所有タル一ノ古キ家屋アリ余ハ之レヲ他人ニ賣渡スニ當リ毫モ其破損所アルコトヲ購買者ニ告知セス此場合ニ於テハ余ハ道德上ノ本務ヲ犯スモ決シテ法律上ノ本務ヲ犯サス此斷定ニ付テハ諸君中或ハ其理由如何ヲ了解スルニ苦シム者アル可キカ故ニ左ニ其所以ヲ説明スヘシ凡ソ物件ヲ賣渡スニ際シ賣主ハ總テ其物件ノ善良ナラサル點ヲ指示スルノ義務ヲ有セス且ツ賣買ノ當時ニ在テハ賣主ト買主トノ意思ハ彼是反對ナリ即チ賣主ハ其物件ノ不良ノ點ヲ知ラシメサルコトヲカメ買主ハ其不良ナル箇所ヲ發見スルコトヲカムルカ故ニ双方間ニ於テ相殺アルナリ

然レモ此ニ又タ定度アリテ一様ナラス即チ賣主其土地ヲ賣拂フニ當リ其坪數ニ付キ買主ヲ欺罔スル時ハ賣主ハ其ニ道德ト法律トニ違背ス可シ此場合ニ於テハ買主ハ賣買契約ヲ取消シ又ハ其價直ノ減少ヲ要求スルコトヲ得可シ又タ粧飾品ヲ販賣スル商人アリ其富裕ナル花主某ノ未タ若年ニシテ二十一年ト假定ス可シ平生驕奢ナルコトヲ知り之レヲ煽動シテ數多ノ贅澤品ヲ購求セシメタリ此場合ニ於テハ其商人ハ道德ニ違背スル而已然レモ若シ其花主未タ二十年ニ滿タサル幼年者ナル時ハ法律上曲チ商人ニ歸シ幼年者ヲシテ其賣買契約ヲ取消スヲ得セシム故ニ幼者ハ其物品ヲ返還シ商人ヨリ其價直ヲ取戻スヲ得可シ但シ幼者ノ買入レタル物品書籍ノ如キ必要ナル物ナル時ハ格別ナリトス此等ノ所爲ヲ罰スル所ノモノハ刑法ニアラスシテ民法ニアルナリ

以上ニ説明シタル所ヲ以テ諸君ハ既ニ道德上ノ本務ト法律上ノ本務ト相接近シ又々時トシテハ相併合スルヲ了解セラル可シ古人曾テ法律ヲ象ルニ小輪ヲ以テシ道德ヲ象ルニ法律ノ小輪ヲ包含スル所ノ大輪ヲ以テセリ此譬喩ニ據ル時ハ容易ニ道德ト法律トノ範圍ヲ知ルヲ得可シ

第二講 明治十六年  
十月十二日

一瀬勇三郎  
市川亮功 同譯

本日ハ前回ノ講義ヨリ引續キタル法律ト道德トノ關係ヲ説キ了ル可ク而シテ法律ノ大區別ヲ示ス可シ先ツ法律ト道德トノ區別ヲ示サント欲スル時ハ余ハ此二者ノ制裁及ヒ其結果ノ如何ヲ説カサル可カラス然ル時ハ諸君ハ容易ク

此二者ヲ渾同セサルニ至ル可シ

若シ人アリ法律上ノ時本務ヲ遵奉セサル時ハ其場合ニ從ヒ各々異別ナル罰ヲ受ク可シ蓋シ法律ハ強テ之ヲ遵奉セシメサルヲ得サルカ故ニ若シ之レヲ守ラサル時ハ其罰ヲ受クルモノトス然リ而シテ其強制若クハ其罰ハ公ケノ官署ヨリ受クル所ノモノナリ之レニ反シ道德上ノ本務ニ關スル時ハ余輩ハ外部ヨリ見ルヲ能ハサル強制ヲ受ク可シ此強制ハ頗ル嚴格ナラサルモノニシテ各自ノ良心ヨリ生スル所ノモノナリ故ニ若シ良心ニ違背スルヲ為ス時ハ後日後悔ノ念ヲ生ス可シ是レ即チ其罰ナリ其他道德ニ背戻スルトキハ輿論ノ之レヲ罰スルアリ此輿論ナルモノハ吾人ノ社會ニ大ナル權力ヲ有スルモノナリ右ニ説明シタル法律又ハ道德ヲ遵奉セシメ且ツ之レヲ犯ス時ハ

罰ヲ加フル所ノ權力ヲ稱シテ制裁ト云フ

佛國ニ於テハ制裁(原語「サンクシヨ」)ナル語ヲ罰(原語「ピニシヨ」)ナル語ニ解釋スル學者往々之レアリ然レモ此解釋ハ正確ナルモノニアラス左ニ此語ノ根元ヲ探究シ其正確ナラサル所以ヲ示ス可シ余ハ前回ノ講義ニ於テ用語ノ非常ニ困難ナルヲ説明シタルカ今又其一例ニ遭遇スルナリ

「サンクシヨ」(制裁)ナル語ハ其真義中竊口強制ノ意義ヲ含有スルモ罰ノ意義ニアラス何トナレハ罰ハ犯罪アリタル場合ニ之レアリト雖モ強制ニ至テハ然ラサレハナリ

茲ニ最モ通俗ナル例ヲ舉ケンコ夜間燈ヲ携フルニアテサレハ通行スルヲ得サル法律アル時ハ是レ警察上ノ規則ニ依リ燈ヲ携フルコ強制セラル、モノナリ又タ私益ニ關スル例ヲ舉ケンニ人

アリ一ノ家屋ヲ借受ケ其期限ニ至ルモ之レヲ返還セス此場合ニ於テハ罰ヲ加ヘスト雖モ貸主自ラ其家財ヲ運搬シ借主ヲシテ退去セシムルヲ得ヘシ是レ決シテ罰ニアラス即チ制裁ナリ

往古羅馬ニ於テハ諸外國ノ公使市街ヲ通行スル時ハ常ニ木標ヲ携ヘシメタリ此木標ハ公使ヲ尊敬ス可キヲ表シ當時之レヲ「サンクメン」ト稱セリ爾來此語ハ「サンクトム」ト變シ又タ「サンクシヨ」ト變シ遂ニ佛語ノ「サンクシヨ」トナレリ故ニ「サンクシヨ」トハ總テ尊敬セシムルノ意ナリ此木標ヲ立ツル事ハ何レノ國ニモ之レアルカ如シ例ヘハ日本ニ於ケルモ葬送ノ際其行列ニ先ダチ木標又ハ花卉等ヲ携ヘシムルハ是レ死者ヲ尊敬セシムルカ爲メナルカ如シ又タ軍旗ノ如キモ是レ人ヲシテ尊敬セシムルノ記標ナリ

故ニ「サンクシヨン」ナル語ハ之レヲ制裁ト譯スルモ常ニ尊敬ノ意ヲ附着セシムル時ハ諸君ハ此語中強制ノ意義アルヲ知ル可ク隨テ又タ罰ノ意義アルヲ知ルニ足ル可シ  
 道徳上ノ本務ト法律上ノ本務トヲ識別シ之レヲ探究スル時ハ大ニ利益アリ蓋シ法律上ノ本務ナル時ハ強制及ヒ罰アリト雖モ道徳上ノ本務ナル時ハ唯々制裁アルニ止マルノミ  
 前例ニ就テ之レヲ適用センニ夜間燈ヲ携ヘテ通行セサル可カラサル強制アリ然ルニ之レヲ遵守セサル時ハ罰アリ又タ家屋ノ借主期限ニ至ルモ該家ヲ去ラサル時ハ是レ其強制ヲ犯スモノナリ而シテ其退去ヲ爲サ、リシカ爲メ貸主ニ損害ヲ生スル時ハ其賠償ヲ爲サ、ル可カラス之レ刑法上ノ罰ニアラスシテ民法上ノ罰ナリトス

又タ前回ニ於テ講説シタル驕奢ナル幼年者ヲ煽動シ物品ヲ買入レシメタル商人ノ例ヲ採ランニ此商人ハ其所爲ノ正直ナルヲヲ説クヲ能ハス其良心ハ必ス其所爲ノ方正ナラサルヲ知ル可キカ故ニ心中悔悟ノ念ヲ生スヘシ  
 然レモ彼レ一両度ニ止マラス屢次此等ノ事ヲ爲ス時ハ其良心モ之レニ慣レ遂ニ其働爲ナキニ至ル可シ然レモ此場合ニハ世人ノ擯斥ヲ受ケ毫モ花主ナキニ至ル是レ其罰ナリ  
 余ハ又タ前回ニ於テ道徳ノ規則上貧人ニ施惠ス可キヲ説ケリ然レモ頗ル吝嗇ナル者アリ此教ヲ遵奉セサル時ハ後日之レヲ爲サ、リシヲ悔悟ス可ク又時トシテハ輿論ノ咎ムル所トナル可シ是レ其制裁ナリ

凡ソ大火等ノ厄災アリテ人民ノ困難ニ陷キル時ハ救恤會ヲ設ケ

義捐金ヲ募集シ之レテ救助スルコトアリ此場合ニ於テハ世人概テ皆貨財ヲ出スカ故ニ右ノ吝嗇家モ之レテ拒絕スルコト能ハス故ニ若シ之レテ肯セサル時ハ此者ハ全ク其名譽ヲ失フ可ク此場合ニ於テハ輿論ノ制裁ハ一層激烈ナル可シ斯クノ如ク良心ニモ輿論ニモ拘ラス出金セサル吝嗇家ハ世間往々之レアリ或ル哲學者カ神ヨリ出ツル所ノ制裁アリト云フハ是レ此場合ナリ蓋シ此者他日其財産ヲ失ヒ零落チ極ムル時ハ誰レカ其神ノ制裁ヲ受ケタルコトヲ説カサランヤ余モ又々此事アルヲ信スルナリ

余ハ茲ニ宗教ノ事ヲ説クニ非スト雖モ抑良心ヲ説クニハ是レノミヲ以テ足レリトセス必ス此良心ノ事ヲ記載シタル書ヲ參觀セサル可カラス而シテ該書ハ神ノ事ヲ記シタルモノナルカ故ニ必ス神アルコトヲ説カサル可カラス孔子ハ曾テ怪力亂神ヲ語ル可

カラサルコトヲ説キタリト雖モ然モ此神ニ威力ヲ附スルコトヲ非トセス余モ又々決シテ此事ヲ深ク探究スルニアラス啻ニ之レヲ尊敬スルナリ

法律上ノ本務ハ道德上ノ本務ヨリ一層其權力強シト雖モ之レヲ以テ道德上ノ本務ナシト思考ス可カラス蓋シ前回ニ於テ大小ニ輪ノ例ヲ採リ説明シタルカ如ク法律上ノ本務中ニ在ル時ハ既ニ道德上ノ本務中ニ在レハナリ左ニ法律上ノ本務ニ違背シタル最モ著明ナル場合即竊盜ノ例ヲ揭示ス可シ

此竊盜ノ所爲ハ又々道德ニ違背シタルモノナリ何トナレハ道德ハ寧ロ人ニ施スコトヲ欲スレハナリ然ルニ竊盜ヲ爲スニ當リ其良心モ之レヲ咎メス又々其面体ヲ掩蔽シタルカ故ニ輿論モ之レヲ咎メス故ニ社會ノ罰ヲ受ケスト雖此場合ニ於テハ若シ余輩ノ尊

信スル神アリテ最後ノ制裁ヲ與フルニアラサレハ社會ハ實ニ混沌ノ中ニ在ル者ト云フモ不可ナキナリ

右ニ説明シタル所ニ依レバ諸君ハ既ニ道德ト法律トノ區別ノ利益如何ヲ了解セラル可シ今ヤ前回ノ講義ニ於テ既ニ説明シタル道德法律ノ大小ニ輪ヲ確定セサル可カラス即チ其區域ヲ判定セサル可カラス諸君或ハ言ハン之レヲ知ラント欲セハ唯タ法律書ヲ精閱スルヲ以テ足レリトス何トナレハ該書中ニ記載スル所ノモノハ是レ法律上ノ本務ニシテ其他記載セサル所ノモノハ總テ道德上ノ本務ナレハナリト然ルニ不幸ニシテ斯クノ如ク容易ナル者ニ非ス蓋シ何レノ國ト雖モ往古ヨリ完備シタル法律ナキトハ之レヲ知ルニ難カラス日本ニ於ケルモ尙ホ數年前ニ溯ル時ハ諸君ハ數多ノ事項ノ法律中ニ記載セラレザリシヲ見ル可シ

余ハ竊ニ民法及ヒ刑法ノ法律ノ二大根元ナルヲ説明セリ此刑法ニ付テハ右ノ法律書中ニ記載シタル所ノモノハ法律上ノ本務ナリト云ヘル説ヲ適用スルヲ得可シ日本ニ於テモ既ニ刑法ノ頒布セラレタルヲ以テ刑法中ニ規定セサル所ノモノハ凡テ許可セラレタルモノナリト斷言スルヲ得可シ四年前ニ在テハ改定律例アリタリト雖モ此斷言ヲ爲スヲ能ハサリシ何トナレハ該律例ハ法ニ明文ナキモノト雖モ類似ノ法ヲ援引シ之レヲ罰シタルハナリ之レニ反シ今日ニ於テハ法ニ明文ナキモノハ總テ之レヲ罰スルヲ得ス然レモ立法者ハ常ニ國家ニ存スルモノナルカ故ニ若シ新タナル事實ヲ發見スル時ハ漸次其法ヲ補充スルヲ要ス刑法ニ付テハ右ニ説明シタルカ如シト雖モ民法ニ付テハ決シテ然ラス凡ソ民法ハ縱令其成典ナシト雖モ其規則ハ常ニ之レアリ

且ツ之レヲ編成スルモ常ニ全備ナリト云フヲ能ハス佛國ハ四百  
年間民法ヲ備ヘス日本英吉利合衆國等ハ今日尙ホ民法ヲ完備セ  
ス然レモ此等ノ國ニ於テハ若シ金錢ヲ借入タル時ハ其期限ニ至  
リ之レヲ返還スルコトハ何人モ疑ハサル所ナリ蓋シ何レノ國ノ成  
典タリト雖モ必ス人間萬般ノ事ヲ逐一豫見スル克ハス民法中ニ  
規定スルコトヲ遺忘シタルモノ屢次之レアルナリ

今ヤ日本民法草案ニモ編入セラレタル佛民法第千三百八十二條  
ヲ一讀ス可シ該條ハ人ニ損害ヲ加フル所行ヲ爲シタル時ハ其償  
ヲ爲ス可キコトヲ命ジタルハ是レ道德上ノ原則ナルモ又々法律上  
ノ原則ナリ左ニ其一例ヲ示ス可シ

例ヘハ余ハ某者ノ土地ニ接近シタル土地ノ所有者ナリ而シテ其  
者ハ平生其土地ヨリ富士山ヲ眺望スルコトヲ得然ルニ余ハ余ノ土

地ニ數本ノ桐樹ヲ植ヘタルカ爲メ某者ハ此桐樹ニ掩ハレ往日ノ  
如ク富士山ヲ眺望スルコト能ハサルニ至レリ此場合ニ於テハ余ハ  
某者ニ生シタル損害ヲ償フ可キ乎決シテ然ラス余ハ法律上其桐  
樹ヲ伐採スルノ義務ナシ

又タ余ハ余ノ土地ト某者ノ土地トノ境界ニ於テ池ヲ堀レリ故ニ  
某者ノ土地漸次頽崩シ余ハ其土地ヲ占領セリ此場合ニ於テハ余  
ハ某者ノ損害ヲ償フ可キ乎此場合ニ於テハ何人ト雖モ池ヲ堀ル  
能ハスト決定スルコトヲ信スルナリ故ニ余ハ或ル距離ヲ存シ損害  
ヲ生セサルコトヲ確知スルニアラサレハ境界ニ於テ池ヲ堀ルコト能  
ハス

古今何レノ國タルヲ問ハス第一ノ場合ニハ賠償ヲ爲スニ及ハス  
第二ノ場合ニハ池ヲ堀ル能ハサルコトハ是レ何人ト雖モ別段法ノ



明文ヲ要セスシテ決定スル所ナリ

本條ハ人ノ過失ニ依リ損害ヲ生シタル場合ヲ豫定セリ(譯書ニ於テ單ニ所行トアルハ蓋シ其當ヲ得ス)故ニ余若シ池ヲ堀リタル時ハ余ニ過失アルカ故ニ本條ヲ以テ之レヲ處分ス可キモ桐樹ヲ植ユルニ至テハ是レ正當ナル所爲ナルヲ以テ本條ヲ適用スルヲ得ス建築ヲ爲スモ亦之レニ同シ蓋シ樹木ヲ植ヘ家屋ヲ築クハ所有者普通ノ所爲ナリト雖モ池ヲ堀ルニ至テハ是レ非常ノ所爲ナルカ故ニ人ニ損害ヲ加ヘサルヲ注意シテ之レヲ爲サ、ル可カラス以上ニ説明シタル所ニ據レハ植樹建築ノ法律ニ違背セサルヤ明カナリ然レモ此等ノ所爲ハ道德ニ背戾シタルモノニアラスヤ如何

此等ノ所爲ハ或時ハ道德ヲ犯ス可キモ又タ或ル時ハ之レヲ犯サ

ス是レ總テ其人ノ良心ニ關スルモノナリ即チ若シ住居ノ爲メニ家屋ヲ建築シ又ハ日光ヲ避クルカ爲メニ桐樹ヲ植ユル時ハ是レ正當ナルカ故ニ決シテ道德ニ違背セスト雖モ隣人ヲシテ富士山ヲ眺望セシメサランカ爲メ樹木ヲ植栽スル時ハ余ニ惡意アルカ故ニ道德ヲ犯ス可シ右同一ノ所爲ニシテ區別アルヲ斯クノ如シ然レモ何人カ余ニ惡意ノ有ルヤ否ヲ判知スルヲ得可キヤ是レ何人モ知ルヲ能ハサルモノナリ

故ニ法律ハ毫モ是等ノ事ヲ説カス蓋シ斯クノ如キ所爲ノ善意ナルカ又ハ惡意ナルカハ人ノ探知スルヲ得可キモノニアラス假令之レヲ判知スルモ恐クハ其誤認アルヲ免レサルナリ

今ヤ一層困難ナル場合ヲ示ス可シ余カ隣人常ニ余カ土地ヲ買入レント欲スレモ事故アリ未タ果サス余之レヲ探知シ隣人ヲシテ

斷然余カ土地ヲ買ハシムルカ爲メ樹木ヲ植ヘ隣家ノ眺望ヲ妨害セリ是レ實際屢次之レアル例ナリ

余ノ思考スル所ニ據レハ此場合ニハ余ニ惡意アラサルカ故ニ道德ヲ犯サ、ルカ如ク何トナレハ余ノ樹木ヲ植ヘタルハ隣人チシテ土地ノ買入ヲ決定セシムルカ爲メナレハナリ然レモ余ハ茲ニ善意又ハ惡意アリト斷言スルニ苦シムナリ姑ク余ノ思考スル所ニ據リ此所爲ハ道德ニ反セサルコトヲ説ク可シ蓋シ余カ隣人チシテ余ノ土地ヲ買ハシメタル事ハ余ノ土地ナキ時ハ充分ナル眺望ヲ有ス可キ隣人チ益シ余ニ於テハ毫モ隱匿スル所ナケレハナリ然レモ彼ノ廉直ナル人ニ至テハ此等ノ事ヲ爲サ、ル可シ右ニ説明シタルカ如ク何レヨリシテ法律何レヨリシテ道德ナルヲ判定スルハ常ニ容易ナラス前例ノ池ヲ堀ルハ法律ヲ犯スト雖

モ樹木ヲ植ユルニ至テハ其意志ノ善惡ニ依リ道德ヲ犯シ又タ之レヲ犯サ、ルコトアルナリ

余輩ハ未タ充分法律ト道德トヲ區別スルノ定則ヲ得ス凡ソ法典中ニ記載シタル所ノモノハ皆法律上ノ本務ナリト云ヘル説アルモ未タ盡シタル言ナリト云フコト能ハス蓋シ毫モ記載シタル法律ナキ國ト雖モ之レヲ目シテ法律ナキ國ト云フコト能ハサレハナリ

第三講 明治十六年 十月十五日

一瀬勇三郎 口譯 近山 安貞 筆記

本日ハ前回ニ續キ法律ノ大意ヲ講ス可シ

余ハ前回ノ將ニ終了セントスルニ當リ一言シタルカ如ク假令ハ如何ナル國ニ於テ如何ナル法律ヲ創設スト雖モ其制定法ノミチ

以テ人間萬般ノ事ヲ規定シ以テ遺スルコトナキハ人類ノ得テ爲シ能ハサル處ナルカ故夥多ノ法律規則ヲ創設セサル可カラサルコトヲ告ケタリ

又前回ニ於テ一言セシ如ク未ダ成文法ヲ創設セサル國アリト雖モ其國ニ於テハ絶ヘテ法律規則ノナキニアラス縱令ヘ成文法ノ設ケナシト雖モ必ス慣習法ナルモノアリテ法律ヲ成ス何トナレハ此ノ慣習法ナルモノハ自然ノ道理ニ基キテ成立スルモノナレハナリ

又タ如何ナル國ヲ問ハス人類ノ集合シテ社會ヲ爲スヤ必ス之ヲ統御ス可キ政府ナカラサル可カラス政府ノ設ケアルヤ又必ス多少ノ法律規則ヲ設定セサル可カラス然レモ國ノ文化ノ程度ニ從ヒ人間萬般ノ事ヲ細密ニ規定シタルト唯其大様ノミヲ規定シタ

ルトアリ今余カ將サ論セントスル成文法ノ創設ナキ國トハ萬般ノ事ヲ細密ニ規定セサル國ナリ先ツ細密ノ法律ノ設ケナキ場合ヲ佛國ノ古代ニ探テ例示センヨ三百年前ノ法律ハ唯其大様ノミヲ記載シタリ其後漸次國王ヨリ細事ニ涉リタル法律ヲ公布シ終ニ今ヲ距ルコト百年始メテ現行民法ヲ編纂シタリ故ニ其以前ニ在テハ完備シタル法律ヲ存セサリキ然レモ絶ヘテ法律ナキニアラス往古羅馬時代ト雖モ既已ニ稍々完全ナル法律ヲ存シタリ夫ノ有名ナル羅馬法律ノ存セサル以前ニ在テハ纔ニ十六ヶ條ノ法律アルニ過キサリシ而シテ例チ日本ニ採ラシニ今日ニ於テハ種々ノ事ヲ規定シタル法律アリト雖モ未ダ規定セラレサルモノ實ニ少々ナラス現ニ其著明ナルモノヲ擧ケンニ契約法ノ如キ是ナリ契約ニ就キテハ多少ノ法律規則ナキニアラスト雖モ未ダ定全

ナル法律アルヲ見ヌ又タ一步ヲ進メテ大古ノ時代ヲ考フルコ當  
時多少ノ法律ナキニアラサルヤ必然ナリト雖モ今日ニ於テハ絶  
テ其痕跡ヲ留メス然レモ當時法律ノ存在シタルハ推知スルヲ得  
ベシ

以上陳述シタル實例ヲ以テ看ルニ太古ト雖モ必ス多少法律ノア  
リタルヲ推知スルヲ得ベシ已ニ法律アリタリトモハ又タ必ス  
裁判官ナカル可カラズ假令ヘ今日ノ如キ裁判官ノ設ケナキモ國  
主親カラ訟庭ニ臨ミ爭論ヲ裁判シタル可シ現ニ佛國ノ如キハ其  
實例ナキニアラス當時ニ在テハ法律上ノ規則ト道德上ノ規則ト  
ヲ判別スルニ難タカルベシト雖モ裁判官ニ於テ其事由ヲ探究シ  
著キ差異アル者ハ其訴ヲ受理シ又ハ棄却セラレタルナル可シ  
右ニ陳述シタル諸國ノ古代ニ存在シタル法律ニ反對シ細密ナル

法律ヲ規定シタル國三ヶ國アリ此等ノ國ノ法制ハ宗教道德等萬  
般ノ事ヲ規定セリ其二ヶ國ハ日本人ノ能ク知ル所ナリト雖モ其  
一ヶ國ハ諸君ノ知ラサル所ノモノ即チ小亞細亞ト稱スル地方ノ  
○猶太國是レナリ此國ノ人民ハ猶太人又ハエブルト入ト稱シ今日  
諸國ニ散在ス猶太ノ法律ハ頗ル嚴格ナル立法者モイースノ制定  
シタルモノニシテ世界中最モ古代ノ法律ナリトス此法律ハ最モ  
威權アリタルヲ以テ各國皆之レヲ自國ノ語ニ翻譯セリ  
該法律中ニハ法律上ノ規則ト道德上ノ規則及宗教上ノ規則トチ  
混記シ些細ナル所爲ト雖モ或ハ之レヲ重罪トシ死刑ニ處スルヲ  
アリ爰ニ道德上ノ規則ヲ犯スニ依リ死刑ニ處セラル、場合ヲ示  
サシ子タル者ハ親ノ教訓ニ從ハサルヲ得ス然ルニ若シ其教訓  
ニ乖戾スルキハ先ツ之ヲ土地ノ古老ニ問ヒ古老ニ於テ其放迭無

頼ノ者タルヲ証白スルキハ頼ノ之ヲ路傍ニ導キ石礫ヲ以テ頭ヲ  
 碎破シ以テ死ニ至ラシメタリ右ノ如キ場合ハ今日ニ於テハ道德  
 上ノ犯罪ニ過キサルカ故ニ道德上ノ制裁ヲ受ルト雖モ決シテ刑  
 法上ノ罰ヲ受クルコトナシ但シ親ノ教訓ニ乖戾シ剩ヘ之レヲ殺傷  
 スルカ如キ所爲アリタル時始テ刑法上ノ罰ヲ受クルモノトス又  
 タ姦通シタル婦人ノ如キモ等シク石礫ヲ以テ頭ヲ碎破セリ夫レ  
 如斯放送無頼ノ子ト姦通シタル婦人ト同一視セリト雖モ放送  
 無頼ハ己レ一身ヲ傷フモノニシテ他人ヲ害セスト雖モ姦通ハ之  
 ニ反シ親族ノ榮譽ヲモ害スルモノナルカ故宜シク彼此ノ所爲ヲ  
 區別セサル可カラズ而ルテ法律上ノ事ヲ道德上ノ事ト同シク  
 又タ「モイーズ」ノ法典ニ據レハ神ニ對シテ不敬ノ所爲アルキハ其  
 犯罪者ヲシテ死刑ニ處セシメタリ余ハ茲ニ「モイーズ」ノ法典中、法

律ニ關シタル條例ヲ舉示セス唯タ該法典ノ區域ヲ超過シ宗教及

ヒ道德ノ事ヲ規定シタルコトヲ知ラシムルノミ

○第二ノ法律ハ即チ往古ノ印度ノ「マヌ」法ナリ

該國ノ法律中支那ニ移傳シ支那ヨリ又タ日本ニ移傳シタル事項  
 少ナカラス故ニ今余カ諸君ニ對シ印度ノ法律ヲ講述スルハ決シ  
 テ無益ニアラサルヘシ該法典ハ實ニ普通法、宗教上ノ法律及ヒ道  
 徳上ノ法律ヲ規定シタルノミナラス又タ軍法、萬國公法等ノ事ヲ  
 記載シ其制裁ハ頗ル寛ナリ實ニ奇怪ナル法律ト云ハサルヲ得ス  
 該法典ハ猶太ノ法律ヨリ數年ノ後ニ編成セラレタリト雖モ佛教  
 ノ以前ニシテ婆羅門教ノ曾テ盛ナル時代ニ行ハレタリ

○第三ノ法律ハ「マホメ」ノ制定シタルモノニシテ「マホメ」ノ宗教  
 ヲ遵奉スル國ハ概チ其法律ヲ遵守セリ而シテ此「マホメ」教ヲ奉

ナル國ハ支那ヨリ西ノ方露西亞ニ至ル迄ノ諸國即チ土耳其格亞刺比亞波斯等及ヒ亞弗利加州中沿海ノ諸國ナリ此ノ「マホメ」ノ法律ハ「モイーズ」及ヒ「マヌ」ノ法律上ヨリ其日淺シト雖モ又新制ナルニアラス今チ距ル千二百年以前ニアリトス而テ其法律ヲ遵奉スル國ハ各政略ヲ異コスト雖モ其法律ニ至テハ悉ク同一ナリ該法典中ニハ法律上ノ規則ト道德上ノ規則ハ又宗教上ノ規則等ヲ並記セリ此「マホメ」ノ法典ヲ名ツケテ「コラント」稱シ「モイーズ」ヲ「ヒ」アルト稱ス其語ハ斯クノ如ク異ナリト雖モ佛譯スル時ハ共ニ書籍ノ謂ナリ

以上三國古代ノ法律ノ景狀ヲ告示シタルハ後來諸君ト共ニ法律ノ沿革ヲ研究スルノ一助ト爲スカ爲メノミ前ニ陳ヘタルカ如ク古代ノ法律ハ凡百ノ事項ヲ並記セシメテ希望シタリト雖モ今日

ハ之ニ反シ立法者ハ可成的彼是ヲ分別シテ記載セシメテ希望スルナリ

古代ノ裁判官ト今日ノ裁判官トヲ比較スルニ古代ノ裁判官ノ執職ハ今日ノ裁判官ノ執職ヨリモ要易ナリ何トナレハ古代ノ裁判官タルヤ法典ニ記載シタル事項ノミヲ知了スルヲ以テ充分トセリ然ルニ今日ノ裁判官ハ唯々法典ニ記載シタル事項ノミヲ知了スルヲ以テ足レリトモス縱令ヘ法典ニ記載ナキ事項ト雖モ法律ノ管轄ス可キモノナルヤ又ハ道德ノ管轄ス可キモノナルヤヲ勘考識別セサルヲ得ス左ニ其法典ニ記載ナキ場合ニシテ裁判所へ出訴アリタルモノヲ例示セシ例ヘハ某者隣地ニ接シ數多ノ桐樹ヲ植ヘタルカ爲メ其隣人ハ大ニ觀望ト日光トヲ遮掩セラレタリ故ニ其隣人ハ某者ニ對シ該樹ヲ除去ス可キヲ請求セリ此場合

ニ於テハ裁判官ハ如何ス可キ乎先ツ自然法ニ據リ此等ノ所爲ヲ考察セサルヲ得ス今之ヲ自然法ニ照スニ所有者ハ其己レニ屬スル物件ハ自由ニ之レヲ處分スルヲ得ルカ故其土地内ニ樹木ヲ植エルハ決シテ法ノ禁スル所ニアラス故ニ裁判官ハ必ス其隣人ノ請求ヲ棄却ス可シ之レニ反シ某者其隣地ニ接シ坑ヲ鑿ナタル時ハ如何此場合ニ於テハ前例ニ反シ他ノ所有者即チ其隣人ヲ害スルヲ以テ裁判官ハ其坑ヲ填塞セシム可ク其未タ事業中ナル時ハ之レヲ停止セシム可シ

又タ他ニ例ヲ採ラシニ爰ニ高低ノ二地アリテ各々其所有者ヲ異ニセリ其高地ノ所有者其地ノ雨水ヲ瀦シ一流之レヲ低地ニ流下セシメタリ此場合ニ於テハ如何ナルカ曰ク水ノ流下スルハ自然ナリト雖モ人爲ニ因リ水ヲ瀦シ之レヲ流下セシメテ他人ヲ害

スルハ自然法ノ許サ、ル處ナレハ裁判官ハ必ス之ヲ禁止セン又タ前例ニ反シ高地ノ所有者ノ所爲ニアラスシテ自然ニ高地ヨリ低地ニ水ノ流下スルヲ恐レ低地ノ所有者ヨリ之レヲ裁判所へ訴へタル場合ニ於テハ裁判官其請求ヲ棄却ス可シ何トナレハ水ノ流下ヲ受クル自然ニシテ得テ間ス可キヲニアラサレハナリ立法者ノ新ニ法律ヲ設クルニ於テハ以上設例ノ如キ萬般ノ事柄ニ注意シテ一モ遺忘セサルヲ勤ムベシト雖モ若シ法典ニ規定ナキ場合ニ遭遇スルキハ裁判官ハ宜シク事理ヲ監ミ自然法ニ照シ以テ其爭論ヲ裁判セサルヘカラス

又タ前例ノ如ク高低ノ二地アリテ各其所有者ヲ異ニセリ而テ高地ニ源泉アリ所有者其泉水ヲ益用シ餘水ヲ流下スルヲ以テ低地ノ所有者モ又タ其餘水ヲ益用セリ然ルニ其源泉ノ所有者惡意ヲ

以テ低地ノ所有者ヲ害スルカ爲メナルカ將タ善意コテ只タ己レヲ益セントスル爲メナルカニ因テ流下ノ餘水ヲ渴止セリ低地ノ所有者ハ己レニ損害ヲ受シルト倣シ依然其泉ノ流下ヲ要求ス此時ニ當テ裁判官ハ如何ニ處分ス可キ乎泉源ノ所有者惡意ヲ以テ渴止シタル時ハ道德上ノ犯者ノミ而テ裁判官ハ道德上ニ涉ラズ自然法ニテ處分スルナリ夫レ自然法ノ原則ニ於テ所有者ハ自由ニ其所有物ヲ處分シ得ヘキカ故之ヲ使用スルモ又自由ナリトス則テ裁判官ハ此原則ニ據テ處分セサル可カラズ縱令ヒ裁判官ニ於テ道德上ノ規則ニ據リ處分ス可キモノナリトスルモ人ノ思想ハ人類ノ得テ推ス可カラサルモノナリ是ヲ以テ爲シ能ハサルモノトス

又タ上中下三段ノ土地アリ各其所有者ヲ異ニセリ而シテ前例ノ如ク高地ニ泉源アリテ其所有者及ヒ水ノ流下スル中央地并ニ低地ノ所有者共ニ其水ヲ益用セリ然ルニ中央地ノ所有者善意ナル平將タ惡意ナル乎其水流ヲ渴止セリ此ノ場合ニ於テ争訟アリタル時ハ如何ン曰ク此場合ニ於テハ其中央地ノ所有者ハ其泉源ヲ所有スルニアラサルカ故流水ヲ渴止シ以テ他人ノ益用ヲ妨害スルヲ能ハス然レモ所有地ヲ流通スル水ヲ使用スルハ勿論爲シ得ヘキモノナリトス

以上述ヘタルカ如クナルヲ以テ争論ヲ裁決スルカ爲メニハ必スシモ成文法ヲ要セス唯タ此場合ニ於テハ裁判官道德上ノ支配ヲ受ク可キモノト法律上ノ支配ヲ受ク可キモノトヲ混同セス自然法ニ則リ裁決ヲ下ス可シ

今ヤ前例ニ異ナル場合ヲ舉示ス可シ人アリ争論ノ末他人ヲ毆打



シ遂ニ死ニ致ラシメタリ此場合ハ素トヨリ刑法上管轄ス可キモノニシテ立法者ノ刑法ヲ創設スルヤ須臾モ忽セニス可カラサルモノナルヲ以テ何國ノ刑法ト雖モ之ヲ罰セサルハナシ然ルニ今立法者ノ刑法ヲ創設スルニ當リ此事ヲ規定スルヲ遺脱シタリトスルヤ裁判官ハ法律ニ正條ナキノ故ヲ以テ其被告人ヲ無罪トセサルヤ必然ナリ即チ其刑罰ハ隨意ナル可キモ必ス之レヲ罰ス可シ

今ヤ一步ヲ進メテ論センニ縱令毆打創傷ノ所爲ハ之レヲ刑法中ニ規定シタリト雖モ刑法上ニ記載シタル事項ハ其犯罪者ヲ懲罰スルノミノ目的ニシテ被害者ノ寡婦孤子等ノ遺族ヲ慰ムル方法ニアラス故ニ其被害者ノ遺屬ハ如何シテ之ヲ慰ム可キ乎現在日本ノ法律ノ如キ毆打致死ノ刑罰ハ之レヲ刑法ニ記載シタリト雖

モ遺屬ヲ慰ムルノ方法即チ損害賠償ニ付テハ未タ元分ナル法律アルヲ見ス

夫レ遺屬ニ損害ヲ賠償スル適理ナルヤ否ヤノ問題ハ古來裁判官ノ躊躇シタルモノナリト雖モ今日ニ於テハ一人ノ之レヲ疑フ者ナシ故ニ被害者ノ遺族ニ賠償ヲ與フルニハ別段法律ノ明文ヲ要セス是レ自然ナレハナリ

又失火ノ如キ過失ハ刑法上罰ス可キモノニアラス假令之ヲ罰ス可キモノトスルモ輕罪タルニ過キス然レモ民法上ニ於テハ如何ス可キ乎民法上ニ於テハ必ス其火災ニ因リ生シタル損害ヲ賠償セサル可カラサルハ勿論ニシテ假令モ法律ニ明文ナキ時ト雖モ其賠償ヲ命セラル、ヤ必然ナリ日本新刑法ハ人ヲ死ニ致ラシメタル失火ヲ罰セリ

又タ民法上裁判所ハ定全シタル法律ナシト雖モ過失ニ因テ生シタル損害ヲ賠償セシメサル可カラズ  
 今ヤ左ニ少シク變狀アル場合ヲ舉示ス可シ人ノ家屋ノ將ニ燒失セントスルヲ聞見シ故意ヲ以テ之レヲ所有者若クハ其近隣ノ者ニ忠告セス後チ其事實ノ發露シタル時ハ其聞見者ニ對シ所有者ヨリ損害賠償ヲ請求スルヲ得ヘキ乎否將ニ燒失セントスルヲ知得シ所有者若クハ近隣ノ者ニ忠告セサルノ所爲ハ道德上頗ル有罪ナリト雖モ敢テ法律ノ問フ可キモノニアラス若シ強テ其所爲ヲ法律上問フ可キモノナリトスル時ハ法律ノ區域ハ非常ニ擴張シテ遂ニ其限界ナキニ至ル可シ若シ之レヲ罰ス可キモノトナス時ハ前回ニ例示シタル將サニ破壞セントスル橋梁ナルヲ他人ニ通知セサル者モ又タ之レヲ罰セサルヲ得ス

又タ余ハ盜賊ノ籬ヲ越ヘ隣家ニ竊入セントスルヲ見タルモ之レヲ隣人ニ忠告セス此場合ニ於テハ余モ亦盜賊ト均シク罰セラレ可キヤ否此ノ場合ニ於テ余カ盜賊ノ竊入セントスルヲ忠告セサルハ若シ之ヲ忠告セハ盜賊ノ後日吾ニ怨讐スルヲ恐ル、  
 因ル人ノ性ニハ強弱アリ其弱ナル者ノ恐怖スルハ當然ニシテ法律上敢テ罰ス可キ者コアラズ若シ裁判官前例ノ如キ場合ニ遭遇シタル時キハ其被告人カ盜賊ノ怨讐ヲ恐怖シタルト否トヲ問ハス直ニ無罪ト爲ス可シ何トナレハ縱令故意ヲ以テ忠告セサル時ト雖モ若シ被告人ニ於テ盜賊ノ怨讐ヲ恐レタル旨ヲ陳述スル時ハ其真意如何ヲ推知シ能ハサルハナリ  
 前回ニ於テ既ニ説明シタルカ如ク法律ノ支配ス可キ事項ヲ約言スルハ何人ト雖モ其所爲ヲ以テ他人ヲ害ス可カラス若シ己ノ所

爲ニ因リ他人ヲ害シタルニ於テハ因テ生シタル損害ヲ擔當ス可  
 シト云フ原則ヲ適用シ萬般ノ事ヲ處分スルニ於テハ假令ヒ法律  
 ノ明文ナキ難事ト雖モ實ニ容易タル可シ  
 前回ヨリ諸君ニ告示シタル數多ノ場合ニハ屢次困難ヲ生スル以  
 テ諸君ハ完全タル法典ノ創設アルノ必要ナルヲ知ラレタル可  
 シ若シ一朝完全ナル法典ヲ創設シタルニ於テハ啻ニ前回ヨリ告  
 示シタル裁判官ノ繁忙ヲ避クルノミニ止マラス人民間ノ爭論ヲ  
 未發ニ防止スルヲ得可シ何トナレハ人民各自ニ於テ法律上爲  
 ス可カラサル事ヲ豫知ス可クダレハナリ

第四講 明治十六年  
 十月十九日

一瀬勇三郎

同譯

市川 亮功

余ハ前回ノ講義ニ於テ縱令成文法ナキ國ト雖モ常ニ人ノ遵奉ス  
 可キ本務アリ又々縱令成文法アリト雖モ常ニ完全無缺ナラサル  
 カ故宜シク之レヲ補充ス可キヲ講説セリ現ニ我カ佛蘭西國ト  
 雖モ尚ホ法典ニ記定ナキカ爲メ裁判官自カラ道德上ノ本務ナル  
 ヤ又ハ法律上ノ本務ナルヤヲ研究セサル可カラサル場合屢次之  
 レアリ

立法者ノ法律ヲ編纂スルニ當リ宜シク避クルヲ力ム可キモノ  
 ハ法律中ニ道德上ノ本務ノ規則ヲ掲載スルニ是レナリ余ハ既ニ  
 前回ノ講義ニ於テ道德上ノ本務ト法律上ノ本務トヲ混淆シタル  
 二三ノ法律ヲ舉示セリ今ヤ前回ヨリ引續キタル事項ヲ補充スル  
 カ爲メ左ニ一ノ緊要ナル問題ヲ示ス可シ  
 道德上ノ規則ハ人智ノ發達スルニ從ヒ之レヲ法律中ニ編入ス可

キヤ果シテ此方法ハ希望ス可キモノナルヤ余ハ此問題ヲ提起スルモ敢テ「モイーズ」等ノ法律ヲ摸擬シ法律上ノ規則ト道徳上ノ規則トヲ混淆ス可キヤト云フニアラス先ツ左ニ此問題ハ「モイーズ」等ノ法律ヲ摸擬スルノ問題ト異ナルヲ証明ス可シ

抑モ「モイーズ」「マヌー」及ヒ「マホメ」三立法律ノ法律中ニ道徳上ノ本務ヲ記載スルヤ各々法律上ノ本務ト道徳上ノ本務トヲ區別シテ編纂シタリト信シタリ(則チ「モイーズ」ノ放蕩無頼ノ子ヲ罰シタル所以ノモノハ決シテ法律ニ據ルニアラスシテ道徳ニ據リタルナリ)然レモ余ノ説ク所ハ之レト異ナリ人智ノ開明ニ從ヒ社會ノ利益ノ爲メ道徳上ノ本務ヲ法律上ノ本務ニ變改ス可キヤト云フニ在リ

諸君ハ今尙ホ法律ト道徳トノ區別即チ凡テ見聞スルコト能ハサル所ノモノハ道徳上ノ本務ニシテ之レニ反シタルモノハ法律上ノ本務ナルコトヲ記憶セラル可シ然レモ犯則ノ事實ハ頗ル之レヲ識別スルニ難キカ故裁判官ハ注意以テ之レヲ調査セサル可カラズ今ヤ左ニ數例ヲ舉ケ人智ノ發達スルニ從ヒ道徳上ノ本務ヲ以テ法律上ノ本務ト爲スコトヲ説ク可シ先ツ賭博ノ例ヲ採ランニ之レヲ爲ス者ハ道徳上ノ本務ヲ犯ス者ナリ何トナレハ之レヲ爲シ瀆得タル者ハ不正ナル原由ヲ以テ利益ヲ得レハナリ蓋シ此利益ハ單ニ骰子ノ轉輾ヨリ生スル偶然ノモノナルカ故之レヲ以テ利益ヲ得ルノ方法ト爲スハ道徳ニ背反スルモノトス

凡ソ人ノ爲スコトヲ得可キ致富ノ方法ニ二種アリ今ヤ縱令他ノ一種ヲ増加スルコトヲ得ルモ其一種ハ決シテ賭博ニアラス曰ク第一勞力ノ報酬、第二贈與、此勞力中ニハ漁獵ヲモ加フルコトヲ得是レ蓋

シ多少危険ナル努力ノ報酬ナレハナリ。第三寶石、其他ノ物ノ發見  
此發見ハ偶生ナリト雖モ時トシテハ何人ニモ屬セサル寶石ヲ發  
見スルコトアリ故ニ此場合ニ於テハ何人カ其財ヲ奪ハレタリト云  
フコト能ハス然レモ賭博ニハ努力モナク又タ失敗者ヨリ贈與ヲ爲  
スニモアラス然ラハ是レ道德ニ背反シタルモノナリ

然レモ日本國及ヒ其他ノ國ノ立法者カ賭博ノ所爲ヲ罰スルハ決  
シテ其所爲ノ道德ニ反スルカ爲メナルニアラス賭博ハ社會ノ弊  
害ヲ來スカ故ナリ而シテ立法者ハ社會ノ弊害ノ監守人ナルカ故  
此弊害ヲ來ス所ノモノヲ罰セザル可カラス其弊害タル賭博ヲ爲  
ス時ハ貴重ナル時間ヲ消費シ且ツ失敗者ノ家族ハ漸次ニ零落シ  
遂ニ竊盜又ハ其他ノ惡行ヲ爲スニ至ルモノナリ故ニ立法者ハ將  
キニ生出ス可キ社會ノ弊害ヲ未發ニ防止セザル可カラス故ニ又

タ立法者ハ金錢ニアラサル他物ニ付キ賭博ヲ爲スコトヲ禁セス此  
場合ニ於ケルモ尙ホ時間ヲ徒費スルヲ免レスト雖モ吾人ハ常ニ  
終日間斷ナク勉強スルコト能ハサルカ故若シ其目的ノ金錢ニアラ  
サル以上ハ立法者ハ敢テ賭博ヲ禁セス

右ニ説明シタル賭博ハ如何シテ之レヲ證明ス可キヤ曰ク此罪ヲ  
罰スルコトハ必ス現行犯タルヲ要スルカ故其證明ハ實ニ容易ナリ  
〔日本刑法ニハ判然現行ノ語ヲ説カサルカ如シ〕此事ニ付テハ貴國  
ノ法律ハ我カ佛蘭西法律ヨリモ一層嚴格ナリ蓋シ佛國ニ於テハ  
朋友間其家内ニテ爲ス所ノ賭博ハ之レヲ罰セスト雖モ日本ニ於  
テハ之レヲ罰スレハナリ佛國ニ於テハ賭博ノ罪ヲ罰スルコトハ現  
行犯ニシテ且ツ其場所ノ友人ノ家屋内ニアラサルコトヲ要ス即チ  
朋友二人相集マリ各自ノ金錢ヲ以テ賭博ヲ爲ス時ハ法律ハ敢テ

之レヲ問ハサルヲ以テ茶店等ニ於ケルモ公然之レヲ行フヲ得然レモ今ヤ此二人ニ第三ノ人ノ加入シ利ヲ得ント欲スル時ハ法律ハ賭博罪ヲ科スルナリ斯クノ如ク日本ト佛蘭西トノ法律ハ自カラ異ナリト雖モ此二國ノ立法者ノ意志ハ共ニ社會ノ害惡ヲ防止セント欲スルニ在リ唯タ日本ノ立法者ハ佛國ニ於ケルヨリモ一層嚴格ナルノミ蓋シ日本ノ立法者ハ實ニ公然タル賭博ヲ罰スルニ止マラス又タ隱密ナル賭博ヲモ社會ヲ害スルモノナリト認定シタレハナリ

諸君ハ既ニ我國ノ法律ト貴國ノ法律トノ間自カラ一ノ差異アル場合ヲ見ラレシナラン是等ノ事ヲ注意セシメタル所以ノモノハ諸君ヲシテ人智ノ發達スルニ從ヒ漸次道德上ノ規則ヲ採リ法律上ノ規則ト爲スヲ知ラシムルカ爲メナリ

又タ人ヲシテ酩酊セシム可キ物即チ酒類ヲ用ヒ酩酊シタル者ハ道德ヲ犯シタル者ナリ何トナレハ人酩酊スルニ於テハ其智能ノ働キヲ停止スレハナリ是レ既ニ前回ニ於テ説明シタル所ノモノニシテ明瞭ナリ然レモ其酩酊シタルノ一事ヲ以テ裁判官ハ之レヲ罰スルヲ能ハス法律ニ照ラシ之レヲ罰スルニハ酩酊ノ爲メ社會ノ弊害ヲ來タシ且ツ現行犯ヲ以テ之レヲ証明シ得可キ場合ヲ要ス

又タ佛國ニ於テハ絶ヘテ阿片ヲ吸用スル者ヲ罰スル法律アルヲナシ何トナレハ阿片ヲ吸用スル者ハ絶ヘテ之レナク假令之レアルモ實ニ稀少ナレハナリ故ニ佛國法律中之レヲ吸用スル者ノ罰ヲ規定セハ實ニ諸人ノ嘲笑ヲ受クヘシ日本ニ於テハ然ラス幸ニ阿片ヲ吸用スル者ノ罰則アリ余ハ日本ノ爲メ之レヲ賀セサルヲ

得ス何トナレハ阿片ハ爲メコ大ナル危害ヲ醸シ且ツ貴國ノ隣國  
支那ニ於テハ之レヲ需用スル者頗ル多キカ故或ハ之レヲ貴國ニ  
傳フ可ケレハナリ之レヲ要スルニ日本ニハ此阿片ノ社會ヲ禍害  
ス可キヤ勿論ニシテ決シテ佛國ノ如クナラサルヤ明瞭ナリ  
今ヤ此阿片吸用ノ犯罪ハ如何シテ之レヲ証明スルコトヲ得ヘキヤ  
曰ク阿片ニハ一種ノ臭氣アルヲ以テ其證據ヲ得ルハ容易ナルカ  
如シ故ニ諸他ノ困難ニ於ケルカ如ク別段搜索ヲ要セス且ツ此犯  
罪ハ常ニ現行犯ヲ要スルカ故其舉証ハ決シテ困難ナラス既ニ說  
明シタルカ如ク日本ノ新刑法ハ阿片ノ社會ヲ禍害スルコトヲ豫見  
シ爲メニ其罰則ヲ規定シ其犯罪者ヲ三箇ノ階級ニ分テリ第一阿  
片ヲ輸入シタル者第二之レヲ吸用セシムル者第三之レヲ吸用ス  
ル者是レナリ第一第二ノ者ニ付テハ法律ハ一層嚴格ナリ且ツ此

等ノ者ノ犯罪ヲ証明スルハ容易ナルカ故此二箇ノ場合ニハ別段  
現行犯タルコトヲ要セス

今ヤ更ニ酩酊シタル者ノ事ヲ復説ス可シ

佛國ニ於テハ七八年以來酒精等ヲ用ヒ酩酊シタル者ヲ罰スルノ  
規則ヲ制定シ或ル條件ヲ以テ之レヲ施行セリ即チ私宅ニ於テ酩  
酊シタル者ハ社會ノ秩序ヲ紊亂セサルカ故法律ハ敢テ之レヲ罰  
セスト雖モ公ケナル場所ニ於テ酩酊シタル時ハ之レヲ罰スルモ  
ノトス然レモ法律ハ先ツ公ケナル場所ニ於テ云々ナル語ヲ以テ  
スルカ故即チ其現行犯ナルコトヲ要スルナリ蓋シ酩酊シタル後チ  
ニ於テハ縱令証人ナリト雖モ其證據ヲ舉グルハ頗ル困難ナレハ  
ナリ

法律ハ又タ既ニ酩酊シタル者ニ酒類ヲ與ヘタル商人ヲ罰スルモ

ノトス何トナレハ其商人ハ酩酊者ヲシテ非常ノ危害ニ陷ルヲシムレハナリ

日本ノ法律ハ斯クノ如ク嚴格ナラス故ニ余ハ此酩酊者ノ事ニ付キ二三ノ法律ヲ制定セラレシヲ希望スルナリ蓋シ貴國ニ於ケルモ酩酊ハ大ニ社會ヲ害スレハナリ余ハ貴國ニ於テ屢次酩酊シタル兵卒ノ劍ヲ拔キ人ヲシテ恐怖セシムルヲ見タリ此等ノ事ハ賭博ヨリ一層嚴酷ニ之レヲ防止セザル可カラス他日日本ニ酩酊ヲ罰スル法律ヲ制定スルモ余ハ之レヲ以テ決シテ日本ノ法律ハ法律上ノ本務ト道德上ノ本務トヲ混同シタリトモ却テ其法律上ノ本務ナルヲ信スルナリ余ノ確信スル所ニ據レハ日本ニ於テハ酒類ノ弊害ハ賭博ニ於ケルヨリモ一層多數ノ盜犯ヲ生出スルガ如シ

余ハ又ク風俗ヲ害スル所爲ヲ例示ス可シ然レモ余ハ敢テ之レヲ詳説セズ單ニ法律ハ或ル限度ヲ以テ風俗ヲ害スル所爲ヲ罰スルヲ説クニ止マル可シ法律ハ其所爲ノ社會ノ秩序ヲ紊亂セサル時ハ之レヲ罰セスト雖モ其公ケナルニ於テハ直チニ之レヲ罰スルモノトス

數年前迄ハ日本ニ於テ市中裸體ノ者ヲ見ルハ決シテ稀少ナラザリシ然レモ今日ニ於テハ絶ヘテ之レヲ見ス是レ蓋シ日本ト諸外國トノ間著明ナル差異ナカラシメシカ爲メ且ツ社會ノ弊害ノ因ヲ生ス可キカ故法律ヲ以テ之レヲ禁止シタルナリ

諸君ハ必ス余輩カ此等ノ事ヲ説クノ目的ハ人智ノ發達スルニ從ヒ道德上ノ規則ヲ法律中ニ編入スト云フニ在ルヲ忘却スルヲ勿レ余ハ此問題ヲシテ一層完全ナラシメンカ爲メ尙ホ左ニ二箇



ノ例ヲ示ス可シ

第一例〇凡ソ契約中詐欺ヲ行フハ實際屢次之レアリ之レヲ發見スルニ於テハ法律上之レヲ罰スルナリ然レモ立法者法典中ニ何々ノ詐欺ヲ罰スルヲ記載スル特ハ余ハ立法者ノ其權限ヲ超過シタルヲ信スルナリ「モイース」ト雖モ尙ホ斯クノ如キ事ヲ記載セス然レモ或ル立法者ハ二三ノ詐欺ヲ記載シ之レニ加フルニ純然タル民法上ノ制裁即チ契約ノ廢棄又ハ其賠償ノヲ記載セリ此契約ノ詐欺ニ付テハ諸君ハ日々數多ノ實例ヲ見ルナル可シ例ヘハ一ノ賣買ニ當リ賣主其物件ノ瑕瑾ヲ隱匿シ完全ナル物件ノ價格ヲ以テ之レヲ賣渡シ後チ買主其瑕瑾アルヲ發見シタル時ハ其契約ヲ廢棄ス可シ然レモ此契約ヲ廢棄スルカ爲メハ其物件ニ瑕瑾アルカ爲メ毫モ其用ヲ爲サ、ル場合ナルヲ要ス故

ニ若シ其瑕瑾些少ナルニ於テハ契約ヲ廢棄セス此場合ニ於テハ何人モ法律中道德上ノ本務ヲ混交シタルヲ説カサル可シ蓋シ茲ニ契約ヲ廢棄スルハ瑕瑾ノ隱匿アルカ爲メ社會ノ弊害ヲ生スルカ爲メシテ之レヲ罰スルノ法文アルカ故ナラス縱令日本ニ於ケルモ尙ホ自然法ヲ以テ其契約ヲ廢棄スルヲ得ヘシ又タ詐欺アルカ爲メ刑法上之レヲ罰スルモノアリ即チ詐欺取財ノ場合はレナリ佛蘭西刑法ハ之レヲ罰シ日本現時ノ刑法モ又タ之レヲ罰スルナリ何トナレハ詐欺取財ハ大ニ社會ニ弊害ヲ生スレハナリ佛國ニ於テハ二三年前詐欺取財ノ事ニ付キ數多ノ法律ヲ增加セリ是レ蓋シ法律ハ昔時未ダ見サリシ所ノ數多ノ場合ヲ發見シタレハナリ

第二例〇道德上ノ本務中前回ニ於テ既ニ講説シタルカ如ク他人

ノ爲メニハ成ル可キ丈ク善事ヲ爲ス可シト云ヘル原則アリ此原則ハ時トシテハ法律上ノ原則ト爲ルモノナリ

此原則ニ據リ隣人ハ相互ニ成ル可キ丈ク善事ヲ爲サ、ル可カラサルカ故或ル土地ノ所有者一方ハ川ニ界セラレ三方ハ他人ノ土地ニ界セラレ其土地ニ通行スルヲ能ハサル時ハ其隣人ハ其土地ヲ通行セシメサル可カラズ即チ法律上之レヲ命スルナリ何トナレハ川ヲ渡ルハ時トシテハ危険ニシテ且ツ不便ナレハナリ

又タ或ル所有者一ノ煉瓦石造ノ家屋ヲ建築シ其隣人モ又タ之レヲ建築セリ此場合ニ於テハ二者各々別段ナル壁ヲ設クルコ及ハス法律上一人ハ償金ヲ出シ他ノ一人ノ壁ヲ使用スルヲ許スナリ

右二箇ノ場合ニハ各々償金ヲ出サ、ル可カラズ而シテ隣人ハ縱

令此償金ヲ拒絶シテ之レヲ受ケサルモ其土地ヲ通行セシメ又ハ其壁ヲ使用セシムルヲ拒絶スルヲ能ハス必ス之レヲ承諾セサル可カラズ蓋シ法律ハ社會ノ利益ヲ謀リ之レヲ命スルカ故ナリ其利益トハ何ソヤ曰フ第一ノ場合ニ於テ土地ノ常ニ圍繞セラル、ニ於テハ決シテ其用ヲ爲サス第二ノ場合ニ二箇ノ壁ヲ作ル時ハ其間若干ノ地爲メニ廢物ニ屬スルカ故宜シク之レヲ益用セサル可カラズ是レ即チ社會ノ利益ナリ其若干ノ地モ繁盛ナル市街ニ在テハ大ニ價格ヲ有スルモノナリ

斯クノ如ク近世ノ法律ハ大ニ他人ノ爲メ成ル可キ丈ク善事ヲ爲サシムルヲ希望シ今チ距ルコ二年此場合ヲ法典中ニ記入シタリ日本民法草案ニモ此等ノ新ナル場合數箇ヲ記入シタリ此等ノ場合ハ昔時習慣ニモ尙ホ之レアラサリシ所ノモノナリ

右ニ説明シタル諸般ノ規則ニハ唯タ民法上ノ強制アルノミ今ヤ  
 左ニ刑法上ノ強制ノ事ヲ論述ス可シ  
 通常吾人ニハ決シテ他人ノ爲メニ善事ヲ爲スノ義務アルコトナシ  
 ト雖モ又タ法律ハ他人ノ爲メニ災害ヲ防禦ス可キコト命スルコ  
 アリ左ニ最モ簡易ナル場合ヲ例示ス可シ例ヘハ余ハ一ノ事實ニ  
 付キ証人タリシ後チ其事實ノ本人法庭ニ出ツルニ及ヒ余ハ裁判  
 官ヨリ召喚ヲ受ケタリ此場合ニ於テハ假令余ハ此事實ノ被告人  
 タラスト雖モ余ノ出庭スルニ於テハ他人ノ利益ト爲ルカ故余ハ  
 必ス之レニ出頭セサルヲ得ス若シ召喚アルモ欠席スル時ハ余ハ  
 科料ノ刑ニ處セラル可シ其欠席二度ニ及フ時ハ禁錮ノ刑ヲ受ク  
 可シ

又タ佛蘭西ニ於テハ火災アル市街ヲ通行スル者ハ必ス水ヲ運搬  
 セサル可カラス然ルニ若シ之レヲ爲サス直チニ其場所ヲ通過セ  
 ント欲スル時ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ此等ノ例ハ頗ル多數  
 ナリト雖モ其目的タルヤ全一ナリ  
 以上數多ノ例ヲ舉示シタル所以ノモノハ蓋シ諸君ヲシテ人智ノ  
 發達スルニ從ヒ法律ノ範圍漸次道德ノ規則上ニ擴張スルコトヲ知  
 ラシメシカ爲メナリ

第五講 明治十六年 十月廿二日

一瀬勇三郎 同譯 市川亮功

余ハ前回ニ於テ法律ト道德トヲ對照シ此二者ノ間自カラ接近シ  
 テ判別シ難キ者アルヲ講說セリ本日ハ「ドロワー」ナル語ニ付キ其  
 種々ノ意義ヲ示ス可シ

余ハ又前回ニ於テ法律ト道德トノ對照ヲ爲スニ當リ行狀ノ本務即チ其規則ナル人ノ爲ス可キ事及ヒ人ノ爲ス可カラサル事ヲ説ケリ此行狀ノ規則カ法律ノ規則タルニハ別段之レヲ法典中ニ記載スルコトヲ要セス然レモ其法律ノ規則ト爲リタル限リハ必ス吾人ノ遵奉ス可キ制裁即チ官署ヨリ出ツル所ノ制裁ナカル可カラス又々縱令成文法ナキモ開明タルト不開明タルトノ國ヲ問ハス常ニ裁判所アリ

此官署ニハ必ス二箇ノ權利力即チ制裁アリ其一ハ或ル事ヲ爲サシメ又ハ或事ヲ爲サシラシムルノ強制ニシテ其一ハ吾人カ法律ノ欲スル所ノモノヲ爲サス又ハ法律ノ欲セサル所ノモノヲ爲ス時法律上之レニ加フル民法上ノ制裁及ヒ時トシテハ刑法上ノ制裁即チ其重大ナル場合(刑罰)ヲ加フルコトアルヘシ

秩序ノ回復ノ事ニ付テハ別段成文法ヲ要セス蓋シ自然法ヲ適要スレハナリ現ニ日本ニ於テモ回復ノ事ニ付テハ自然法ヲ以テ事ヲ決スルカ如シ即チ慣習法ヲ適用シ或ハ佛蘭西法ニ則ルコトアル可シ

斯クノ如ク日本ニ於テ佛蘭西法律ヲ採用シ之レヲ模倣スルモ諸君ハ必ス之レヲ耻辱トスル勿レ何トナレハ佛蘭西ト雖モ尙ホ往古法典ノ不完全ナルニ當テハ羅馬法及ヒ其他ノ法律ヲ採用シタレハナリ此他國ノ法律ヲ採用シタルハ決シテ成文法トシテ之レヲ採リタルニアラス記載セラレタル理論ナリトシテ之レヲ採リタルナリ又々獨逸國ノ羅馬法ヲ採用シタルハ今チ距ルコト未ダ五十年ニ至ラス又々英吉利、亞米利加等モ屢次羅馬法ヲ援引スト雖

第二ノ制裁モ又第一ノ制裁ノ如ク之レヲ適用シ別段成文法ヲ要セズ然レモ何レノ國ニ於ケルモ先ツ刑法ヲ制定シ其不充分ナルニ於テハ他國ノ刑法ヲ以テ之レヲ補充スルナリ是レ蓋シ日本ノ從來爲シタル所ナリ之レニ反シ若シ未タ刑罰アラサル時ハ吾人ハ正ニ道德ノ範圍内ニ在ル可シ

以上ニ説明シタル所ノモノハ總テ前數回ノ講義ニ於テ説明シタル所ノモノ、略説ニシテ頗ル必要ナルモノナリ今ヤ余ハ佛蘭西ニ於テ法律若クハ權利ト解スル「ドロワー」ナル語ノ事ヲ説ク可シ  
往古羅馬ニ於テハ法律ヲ「ドロワー」ト云ハスシテ「ジュヌス」ト云ヘリ此「ジュヌス」ナル語ハ羅典ノ「ジュッソム」ナル語ヨリ傳來シ命セラレタルモノ即チ命令ノ義ナリ佛蘭西ニ云フ所ノ「ドロワー」ナル語ハ此「ジュヌス」ナル語ノ譯語ニアラス眞直ノ義ナリ蓋シ迂回ヲ爲サス

一直線ニ事ヲ行フ可キヲ云フナリ故ニ羅典ノ語トハ其起原自カラ異ナリト雖モ其實敢テ差違アルコトナシ蓋シ常ニ直線ナル道ヲ行ク可キノ謂ナレハナリ日本ニ於テハ「ドロワー」ヲ法律ト譯スルカ如キモ余ハ此語ニハ何等ノ意義アルヤヲ知ラス兎モ角モ羅典ノ「ジュヌス」佛蘭西ノ「ドロワー」日本ノ法律ハ共ニ一義ナリ

佛蘭西ノ「ドロワー」ナル語ニハ各々異別ナル二箇ノ意義アリ余ハ既ニ其第一ノ意義ヲ説明シタルカ故ニ左ニ第二ノ意義ヲ説キ之レヲ示ス可シ此第二ノ意義ハ既ニ屢次諸君ニ説明シタル所ノモノニシテ雙方中ノ一方ニ本務アル時ハ之レニ對シ他ノ一方ニ在ル所ノモノ即チ權利是レナリ  
例ヲ擧ケ之レヲ説カンニ人アリ他人ヨリ金額ヲ借入レタル時ハ之レヲ返還ス可キノ本務アリ之レヲ貸與ヘタル者ニハ之レヲ要

求スルノ權利アリ又タ何レノ國ニ於ケルモ吾人ハ租稅ヲ拂ハサル可カラス此租稅ハ概ネ金錢ヲ以テ之レヲ拂フモノナリ此場合ニ於ケルモ尙ホ租稅上納者ニハ之レヲ拂フノ本務アリ政府ニハ之レヲ徵収スルノ權利アリ然レモ又タ時トシテハ上納者權利ヲ有スルコトアルナリ

又タ刑法上ノ秩序ニ付キ例ヲ採ランニ吾人ニハ各々法律ヲ遵奉スルノ本務アリ然ルニ之レヲ遵奉履行セサル時ハ政府ニハ之レヲ罰スルノ權利アリ又タ隣人間ノ例ヲ採ランニ隣人ニハ常ニ他ノ隣人ニ對シ或ル事ヲ爲サ、ルトノ本務アリ之レヲ爲スニ於テハ他ノ隣人ニハ之レヲ止ムルノ權利アルナリ

斯クノ如ク「ドロワー」ナル語ニ法律ト權利ト全ク異別ナルニ箇ノ意義アルハ實ニ遺憾ナリ羅典ニ於テモ我が國ノ如ク右二個

ノ場合ヲ指示スルニ「ジュヌ」ナル一語ヲ以テセリ日本ニハ幸ニ法律及ヒ權利ノ二語アリト實ニ便利ナリト云フ可シ然レモ我が國ニ於テモ此一語ノ爲メ決シテ此二者ヲ混同シ困難ヲ生シタルコトナシ蓋シ之レアルモ實ニ稀少ナリトス抑「ドロワー」ナル語ヲ法律ト解釋ス可キニ第二ノ意義タル權利ノ解釋ヲ以テスルキハ決シテ其文章ヲ理解スルコト能ハサル可ク又タ權利ト解釋ス可キ場合ニ法律ト解釋スルモ其趣旨ヲ了解スルコト能ハサル可ケレハナリ今ヤ法律ノ順序ヲ説キ併セテ其大區別ヲ示ス可シ抑モ法律ノ自然ノ最大區別ハ公法及ヒ私法ナリ羅馬ニ於テハ法律學脩業ノ初日ヨリ此區別ノ事ヲ教授セリ此二法ノ定義ハ實ニ容易ナルモノナリ即チ公法トハ公ケノ利益ニ關スル法律ニシテ私法トハ人民各自ノ利益ニ關スルモノナリ故ニ公ケノ利益ト云フ時ハ其間既

ニ各自ノ利益ヲモ包含シ私法ト云フ時ハ毫モ國家ノ利益ニ關セ  
 ス  
 竊ニ既ニ説明シタル租稅ヲ拂フノ法律ハ一ノ公法ナリ何トナレ  
 ハ租稅ハ國家ノ利益ニ關スレハナリ然レモ又々之レヲ上納スル  
 人民アルカ故ニ其各自ノ利益ニモ關スルナリ之レニ反シ貸借ノ  
 場合ニハ國家ハ毫モ之レニ關セス唯タ人民各自ニ關スルノミ又  
 タ隣人間ノ義務ニ於ルモ尙ホ純然タル私法ナリ又々竊盜若クハ  
 毆打創傷ノ場合ニハ之レニ因リ損害ヲ受ケタル者アルカ故私法  
 ナリト雖モ政府ハ其犯罪ヲ罰スルカ故ニ公法ニモ管スルナリ余  
 輩カ將サニ諸君ト共ニ研究ス可キ諸項ハ此等二法ノ小區別タル  
 ニ過キス先ツ左ニ公法ノ小區別ヲ列記ス可シ  
 第一〇最モ重立タル區別ハ政法即チ憲法ニシテ總テ國ノ政体ニ

關スル所ノ規則ヲ云フ蓋シ各國ニハ各々其政体アリ其主重ナル  
 モノハ君政及ヒ民政ナリ此君政中ニモ又々專制政体ト温和政体  
 トノ二政体アリ此温和政体トハ民撰議院及ヒ代議士アルノ政体  
 ナリ故ニ例ヘハ法律ヲ編纂スルニ當リテハ國王ト議院ト共同  
 一致シテ之レヲ議セサル可カラス

歐羅巴洲ニ於テハ二箇國ヲ除ク外諸國皆温和政体ノ國ナリト  
 云フトテ得可シ其例外ノ二箇國トハ露西亞及ヒ土耳其格ノ二帝國  
 ナリ蓋シ露國ニハ民撰議院ナク國王自ラ万機ヲ掌ルカ故ニ是レ  
 專制政治ナリ之レニ反シ壤地利及ヒ獨逸ノ二國ハ帝國ナルモ議  
 院アリ今チ距ル一十三年即チ現今ノ共和政体ノ以前ハ佛蘭西國  
 モ又々同一ノ政体ナリシ其他歐洲中ノ諸國ニハ王ヲ奉スルモノ  
 アリ又女王ヲ奉スルモノアリ英吉利國ハ女王ヲ奉シ民撰議院ア

リ斯クノ如ク帝ヲ奉スルモ王ヲ奉スルモ其國權ニ至テハ別段異ナルコトナシ之レニ反シ佛蘭西國及ヒ瑞西國ハ共ニ共和政体ナリ諸君若シ地理書ヲ一讀セラル、時ハ共ニ各國ノ政体如何ヲ了知セラル可シ蓋シ地理書ニハ常ニ各國ノ政体ヲ附記スレハナリ立憲政体ト稱スル所ノモノハ即チ余輩カ既ニ諸君ニ講説シタル温和政体ナリ其立憲政体ト稱スル所以ノモノハ蓋シ權利ノ基本タル憲法アレハナリ

日本帝國ハ王政維新以前ニ在テハ專制政体ナリシト雖モ現今ハ元老院アルカ故ニ是レ温和政体ナリ曩ニ日本皇帝ハ民撰議院設定ノ事ヲ人民ニ約セラレタルヲ以テ程ナク日本國ノ政体完全ナルハ立憲政体ト爲ル可シ

右ニ説明シ來リタル憲法ハ歐洲ニ於テハ頗ル主重ナルモノナル

カ故ニ佛國ニ於テハ此憲法ノミチ脩ムル學校アリ

第二〇公法ノ第二區別ハ行政法ニシテ國ト人民各自トノ關係ヲ制限スル法律即チ國ニ對スル義務ヲ設定スルモノナリ此行政法中區域最モ廣ク且ツ最モ重立タルモノハ租稅ナリ佛國ニ於テハ各種ノ租稅アリ日本ニモ又々其種類頗ル繁多ナルカ如シ

諸君ハ第三年期ニ至リ行政法ノ講義ヲ聽聞ス可シト雖モ民法中屢次何々ノ部分ハ行政法中ニ規定セラル可シト云ヘルコトアルヲ以テ本日ハ其大要ヲ講説ス可シ

租稅ニ二種アリ曰ク直稅曰ク間稅是レナリ直稅トハ地租ノ如ク直接ニ吾人ニ係ルモノニシテ間稅トハ間接ノ方法ヲ以テ吾人ニ係ルモノナリ故ニ直稅ヲ徵収スルコトハ直チニ吾人ノ名ヲ指示シ吾人ハ直チニ之レヲ上納セサル可カラス之レニ反シ間稅ニ至テ



ハ吾人ハ知ラス知ラス之レヲ拂ヒ政府モ又タ之レヲ徴収スルコ  
何人ヨリ上納シタルヤヲ知ラス即チ日本ニ於ケル酒税ノ如キ之  
レヲ拂フハ消費者ナリト雖ヒ消費者ハ之レヲ拂フヲ知ラス煙  
草税又タ之ニ同シ

佛蘭西ニ於テハ葡萄酒ノ税ハ其醸造ノ際之レヲ拂ハスト雖ヒ之  
レヲ賣捌クニ至テハ直チニ最初ノ消費者ヨリ徴収スル所ノ租税  
アリ此租税ヲ名ツケテ消費税ト云フ蓋シ此租税ハ消費ニ因リ生  
スレハナリ

又タ輸出ト輸入トヲ問ハス海關税ノ如キ政府ハ何人ヨリ之レヲ  
上納スルヤヲ知ラス是レ即チ一ノ間税ナリ又証書ヲ作爲スルニ  
ハ必ス印紙ヲ用ヒサル可カラサルカ故ニ之レヲ購求セサル可カ  
ラス此印紙税ノ如キモ又タ政府ハ何人ヨリ之レヲ拂ヒタルヤヲ

知ラス

又タ一種ノ租税ト稱スル兵役ノ義務モ又タ行政上ノ規則ナリ其  
他道路水流等ニ付テモ吾人ハ吾人ノ欲スル所ヲ爲スコ能ハス蓋  
シ常ニ之レニ關スル規則及ヒ制限アレハナリ此等ノ規則モ又タ  
行政法ヲ以テ之レヲ規定ス又タ屋上ヲ覆フニ瓦ヲ以テス可キノ  
命令モ行政法ノ規定スル所ナリ

斯クノ如ク行政法ニ規定スル所ノモノ、例ハ其數無量ナリト雖  
ヒ一ノ法律ヲ採リ其行政上ノモノナルヤ又ハ民法上ノモノナル  
ヤヲ判別スルハ實ニ容易ナリ

第三〇公法ノ第三別ハ刑法ナリトス何トナレハ刑法ハ社會ノ利  
益即チ公ケノ利益ニ關スレハナリ

以上諸君ノ既ニ了解セラレタルカ如ク此公法ト私法トノ區別ハ

實ニ緊要ナリ加之此區別ハ爭訟ニ當リ大ニ必要ナリ何トナレハ  
此公私二法ニハ其裁判官自ラ異ナレハナリ

憲法上ノ爭論ハ一大問題ナルカ故ニ余ハ茲ニ其管轄權ノ事ヲ説  
カスト雖モ行政法ノ一付テハ佛蘭西ニハ行政裁判官ナルモノ  
アリ日本ニ於テハ別段此設ケナク通常ノ裁判所ニ於テ其問題ヲ  
裁判スルナリ

刑事ニ付テハ特ニ其裁判所ヲ刑事裁判所ト稱スト雖モ其實民事  
裁判官兼テテ之レヲ掌ルナリ

今ヤ私法ノ小區別ニ移リ之レヲ講説スヘシ

私法ニ二別アリ曰ク民法(即チ普通法)曰ク商法是レナリ余輩カ漸  
次諸君ト共ニ研究ス可キ所ノモノハ正ニ此民法ニシテ其他ノモ  
ノハ他ノ諸教師ノ擔任スル所ナリ

民法ノ目的ニ二種アリ曰ク所有權曰ク契約是レ其最モ重立タル  
モノナリ世人ノ民法ヲ普通法ト稱スル所以ノモノハ蓋シ民法ハ  
何人ニモ之レヲ適用スルヲ得可ケレハナリ  
之レニ反シ商法ハ一ノ特別法ナリ然レモ商法ハ商人コノミ之レ  
ヲ適用ス可キモノナリト思考ス可カラズ商法ハ又チ商業上ノ証  
書ニ關スル特別ノ規則ヲ制定スルナリ之レヲ要スルニ商法ハ商  
業ヲ容易ニシ之レヲ獎勵スルカ爲メ設定シタル商業上ニ特別ナ  
ル法ナリ故ニ又チ証書ノ不正ニ作爲セテレタル場合等ヲ罰スル  
ヤ民法ナリト雖モ普通ノ証書即チ商人ナラサル者ノ作爲シタル  
証書ノ場合ヨリモ一層嚴ナリ是レ蓋シ商人ノ資格アレハナリ又  
ターノ商人家資分産ヲ爲ス時ハ其罰ヤ嚴ナリトス  
曩ニ既ニ説明シタルカ如ク商法ハ一ノ例外即チ特別法ナルカ故

先ツ普通法ヲ知ラサル可カラス  
 今ヤ公私二法中ニ入ルカ故ニ公法中ニモ又タ私法中ニモ編入ス  
 ルヲ能ハサル所ノモノアリ即チ人ノ權ニシテ時トシテハ家族ノ  
 構成ト稱スル所ノモノナリ然レモ此語ハ制限ニ過キタルカ故ニ  
 宜シク人ノ權ト稱ス可シ

凡ツ人ノ日本人タルト外國人タルトノ差異即チ國民タルヲ規  
 定スル所ノモノハ即チ人ノ權ナリ其他父タル事、母タル事、子タル  
 事、夫婦タル間ニ生レシ子ノ子タル事、私生ノ子ノ事、夫婦雙方ノ權  
 威及ヒ從順ノ關係ノ事、父ニ對シ子ノ從順ノ程度ノ事、或ル所爲チ  
 爲スニ必要ナル年齢ノ事及ヒ精神錯亂シタル者ノ條件等ハ皆人  
 ノ權ノ規定スル所ノモノナリ  
 人ノ權ハ人民各自ニ關スルモノナルカ故ニ全ク私法ナリト思考

又可カラズ人ノ權ハ又タ公法ナルカ故ニ何人モ之レヲ變改スル  
 ヲ能ハサル場合アリ

此人ノ權ニ付キ爭論アリタル時之レヲ裁判スルハ通常ノ民事裁  
 判所ナリトス是レ人ノ權ヲ民法中ニ記載シタル一ノ理由ナリト  
 ス

余輩ハ民法ノ講義ヲ擔任シタリト雖モ此人ノ權ノ事ニ付テハ他  
 ノ教師アルカ故余ノ諸君ニ講説ス可キ所ノモノハ通常ノ民法ナ  
 リトス

第六講 明治十六年  
 十月廿四日

一瀬勇三郎  
 市川 亮功  
 同譯

余ハ前回ノ講義ニ於テ余ノ順次講説ス可キモノヲ指定セリ即チ

余ハ公法ヲ排除シ又タ私法中ノ特別法ナルヲ以テ商法ヲモ排除シ諸君ノ爾來研究ス可キ所ノモノハ私法中ニ殘餘スルモノ即チ普通法ナルヲ告ケタリ此普通法ト稱スル所以ノモノハ蓋シ此法律ハ諸般ノ事項即チ商人ノ業ニモ又タ之レヲ適用スルヲ得レハナリ然レモ商賣ノ業ニ付テハ時トシテハ例外法アリト雖モ余ハ之レヲ敷演セサルヘシ

此私法中ノ特別法モ又タ普通法中ニ存在スルヲアリ例ヘハ通常法二人ノ間ニ不動産ノ賣買ヲ爲ス時ハ此二人ハ普通法ノ範圍内ニ在リ特別法タル商法ノ範圍内ニ入ラスト雖モ尙ホ數多ノ例外法アリ即チ若シ此不動産二十年以下ノ幼年者ニ屬スル時ハ其賣買ニ適用ス可キ法律其丁年者ノ場合ニ於ケルモノト異ナリ蓋シ幼年者ノ所有者ニハ特別ノ規則アレハナリ又タ婚姻シタル婦ノ賣

買ノ場合ニモ普通法中ノ例外法アリ蓋シ婚姻シタル婦ノ擅ニ賣買ヲ爲ス時ハ其夫ニ損失ヲ生ス可ケレハナリ

又タ外國人ト内國人トノ間ニ賣買ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル法律モ尙ホ一ノ例外法ナリ(佛國ニ於テハ此法律ハ例外法ナラスト雖モ日本ニ於テハ異ナリ)斯クノ如ク例外法アルモ此等ノ者ハ決シテ商人ニアラス此普通法ナル語ハ爾來屢次之レヲ用ユ可キカ故諸君ハ宜シク之レヲ記憶ス可シ

右ニ陳述スルカ如ク余ノ諸君ニ講説ス可キ所ノ者ノハ普通私法ナリト雖モ又タ時トシテハ公法ヲ説明スルヲアル可シ是レ諸君ノ第一ニ注意ス可キナリ

諸君ハ私法中屢次何々ノ所爲ハ公ケハ秩序ノ爲メ之レヲ禁スト云ヘル法律アルヲ見ル可シ茲ニ公ケノ秩序ト云フ所ノモノハ即

チ公法ナリトス左ニ其實例ヲ舉示ス可シ

佛民法第六條ニ曰ク私コ爲シタル契約ヲ以テ公ケノ安寧及ヒ風儀ニ管スル法律ヲ犯ス可カラスト日本民法草案第三百四十九條モ又タ同一ノ條例ヲ記載セリ

第二ニ注意ス可キコハ私法ニ關スル訴訟ヲ處分スルニハ必ス公ケノ官署ノ干涉ヲ要スルコト是レナリ

元來人民間ニ契約ヲ爲スコトハ固ヨリ其自由ニシテ之レヲ取消スコトモ又タ自由ナリ然レモ若シ締約者中ノ一人其執行ス可キ所ノモノヲ執行セサル時ハ官署ノ干涉ヲ請求シ公平ノ處分ヲ仰ガサル可カラス何トナレハ吾人ハ自カラ裁判スルコトヲ得サレハナリ此場合ニ於テ訴訟ヲ管轄スル所ノ裁判所ハ吾人ノ民事裁判所ト稱スル普通法ノ裁判所ナリ

今ヤ何レノ國ノ私法ヲ採リ之レヲ講説ス可キヤ若シ夫レ日本ノ私法ヲ採ル可シトセハ是レ余ニ於テ頗ル困難ナル事ナリ蓋シ日本ニハ成典ナシ第一ニ慣習法ヲ適用シ第二ニ王政維新以來ニ頒布シタル數多ノ布達ヲ適用スルカ故總テ此等ノ法律ヲ熟知スルハ余ニ於テ實ニ困難ナリ然レモ余ハ布達ヲ以テ達セラレタル法律中ノ二三就中有利貸借ニ關スル法律ノ如キハ之レヲ熟知スルヲ以テ好機會ヲ待テ之レヲ説明ス可シ

其他日本ニハ尙ホ一ノ適用ス可キモノアリ即チ自然法是レナリ蓋シ數多ノ訴訟中ニハ慣習法ニテモ又タ布達ニテモ未タ規定セサル所ノ事項屢次之レアルカ故此場合ニ於テハ裁判官ハ自然法ヲ以テ之レヲ判決セサルヲ得ス

左ニ記載スル二件ニ付テハ未タ往古ノ慣習法ヲ適用スルカ如シ

第一遺物相續○然レモ其慣習法ニハ數多ノ欠點アル可キカ故此  
 場合ニ於テハ自然法ヲ以テ之レヲ補ハサル可カラス何トナレハ  
 此事項ニ付テハ布達アラサレハナリ  
 第二不動産ノ貸借○家屋土地ノ貸借ノ如キハ日本古代ヨリ屢次  
 之レアルモノナルカ故定メテ慣習法ヲ適用ス可シ然レモ是亦不  
 充分ナル可キカ故布達等ヲ以テ之レヲ補フ可シ  
 有利貸借ニ付テハ既ニ布達アルカ故之レヲ適用ス可シト雖モ余  
 ハ其布達中左ノ一點ニ付テハ如何ニ規定シタルヤヲ見ス即チ例  
 ハハ甲者アリ銀貨ニテ百圓ノ金額ヲ乙者ニ貸渡シ而シ其際銀貨  
 ニテ之レヲ辨濟ス可キヲ約セサル場合ニ於テハ乙者ハ同シク  
 銀貨ヲ以テ其金額ヲ辨濟ス可キヤ又ハ紙幣ヲ以テスルモ敢テ不  
 可ナキヤ

佛國ニ於テハ乙者ハ通用貨幣ヲ以テ其金額ヲ辨濟セサル可カラ  
 ス余ハ日本ニ於テハ其規定如何ヲ知ラスト雖モ義務者ヨリ銀貨  
 ニテ之レヲ返濟スルハ實ニ至當ナルモ又タ貨幣ノ相場ニ從ヒ之  
 レニ相當スル紙幣ヲ以テスルモ敢テ差支ナキヲ信スルナリ  
 今ヤ此有利貸借中既ニ説明シタル公ケノ秩序ニ關スルカ故契約  
 スルヲ能ハサル場合ヲ示ス可シ  
 佛蘭西ニ於テハ權利者ハ縱令銀貨ヲ以テ金額ヲ貸與ヘタリト雖  
 モ義務者ヨリ貨幣ノ相庭ニ據リ紙幣ヲ以テ辨濟ヲ爲シタル時ハ  
 之レヲ拒絕スルヲ能ハス故ニ又タ權利者ハ義務者ヨリ銀貨ヲ以  
 テ辨濟ヲ受ク可キヲ約スルヲ能ハス縱令之レヲ約スルモ其契  
 約ハ無効ナリトス何トナレハ此契約ハ公ケノ秩序ヲ害スレハナ  
 リ日本ニ於テモ此規則ハ多少ノ改正ヲ以テ必スヤ採用セラル可

シ何トナレハ若シ必ス銀貨ヲ以テスルニアラサレハ辨濟ヲ爲ス可カラストスル時ハ世人ハ毫モ紙幣ヲ信用セサルニ至ル可ケレハナリ故ニ日本民法草案ハ紙幣ヲ以テ辨濟ヲ爲スモ貨幣ノ相庭ニ據ル時ハ其契約ノ有効ナルヲ規定セリ然レモ該民法ハ未ダ草案ナルヲ以テ其頒布ニ至ル迄ハ自然法ヲ適用ス可シ

尙ホ左ニ裁判所ノ自然法ヨリ他ニ適用スルヲ得サル一ノ場合ヲ示ス可シ其場合ハ即チ賣買ニシテ此事ニ付テハ絶ヘテ布達アルヲ見ス又タ其慣習法ハ決シテ充分ナラスト雖モ必スシモ法律ノ明文ヲ要セス蓋シ條理ニ問ヒ事ヲ決スレハナリ左ニ一ノ困難ナル場合ヲ示ス可シ

例ヘハ甲者アリ乙者ノ所有スル物件ヲ自己ニ屬スルモノナリト誤解シ善意ニテ之レヲ丙者ニ賣渡セリ其後眞ノ所有者即チ乙者

其物件ヲ丙者ヨリ取戻サント欲シ訟ヲ裁判所ニ起シタリ此場合ニ於テハ裁判所ハ自然法ヲ適用セサル可カラズ

右ノ場合ニ於テ若シ丙者即チ買主既ニ其物件ノ代金ヲ拂ヒタル時ハ裁判官ハ甲者即チ賣主ニ命シ之レヲ買主ニ返還セシム可キカ故敢テ困難ナラスト雖モ若シ買主其買入レタル物件ニ修繕ヲ加ヘ又ハ其他ノ事故ニ付キ金錢ヲ費シタル時ハ如何ス可キ乎若シ其失費ノ新建築物ニ係ル時ハ裁判所ハ買主ヲシテ其建築物ヲ取除カシム可シ然レモ之レヲ建築シタル費用ハ何人ヨリ之レヲ求ム可キ乎此場合ニ於テハ裁判官ハ其費用ヲ買主ニ返還ス可キヲ賣主ニ命ス可シ蓋シ賣主ニハ過失アレハナリ然レモ買主ハ買入レタル後チ新建築ヲ爲サズ唯チ在來ノ家屋ニ修繕ヲ加ヘタルノミナレハ此場合ニ於テハ買主ハ其家屋ヲ破壊シ之レヲ持去

ルヲ得ス然レモ買主ニハ常ニ其修繕ノ費用アリ然ラハ何人カ  
此修繕ニ付キ利得ス可キヤ曰ク乙者即チ正當ナル所有者ハ其利  
益ヲ得可キカ故總テ其修繕ノ費用ヲ買主ニ拂フ可シ然レモ贅澤  
ノ費用ニ至テハ眞ノ所有者ハ之レヲ拂ハサル可シ然ラハ何人カ  
之レヲ擔當ス可キヤ曰ク賣主是レナリ

諸君ハ必スヤ余輩ノ此等種々ノ問題ニ説入リタル事ヲ怪ム可シ  
然レモ余輩カ此等ノ事ヲ説明シ來リタル所以ノモノハ諸君チシ  
テ裁判所ハ第一慣習法ヲ適用シ第二布達ヲ適用シ第三自然法ヲ  
適用スルヲ知ラシメシカ爲メナリ此自然法ニ付テハ別段講釋  
ヲ要セズ蓋シ吾人各自ノ良知ニテ感悟シ得ヘキモノナレハナリ  
之ヲ要スルニ日本ノ裁判官ハ常ニ右三個ノ法ニ則リ裁判ス可シ  
凡ソ人チ教ユルニハ種々ノ順序アリ其方法ハ各々異ナリト雖モ

其最モ普通ナルモノハ先ツ容易ナル事項ヨリ説キ始メ漸次困難  
ナル事項ニ入ルヲ是レナリ余モ本日ヨリ此方法ニ従フ可シ  
諸君ノ漢學ヲ脩メタルヤ必ス右ノ方法ニ依ラレタルナル可シ又  
タ算術ノ如キモ此方法ニ依ラサル可カラス然レモ法律學ニ至テ  
ハ此順序ヲ確守スルヲ能ハス蓋シ法律學ハ唯ターノ事項ノミチ  
脩メ他ノ事項ヲ兼脩セサルニ於テハ到底講說スルヲ能ハサレハ  
ナリ故ニ時トシテハ未タ諸君ノ知ラサル事項ヲ既ニ知ル所ノ事  
項ト共ニ講說スルヲアル可シ是レ蓋シ法律學ニ於テハ諸件皆連  
續スレハナリ左ニ其証ヲ示ス可シ

曩ニ説明シタル賣買ノ場合ニハ其中數多ノ原則アルナリ即チ賣  
主ニ於テ代價ヲ買主ニ返還スルノ義務アルハ是レ不正ニ利益ヲ  
得サルカ爲メニシテ買主其新建築物ヲ破壊シタル時ハ賣主ハ其



費用ヲ買主ニ償ハサル可カラス是レ即チ賣主ヨリ買主ニ加ヘタル損害ノ賠償ナリ

以上賣買ノ設例中ニ二箇ノ原則アリ即チ不正ニ利得ス可カラサルヲ及ヒ損害ヲ加フ可カラサルヲ是レナリ此二箇ノ原則ハ又タ右ノ設例ニ適用スルヲ得可シ即チ眞ノ所有者其物件ヲ取戻シタル時ハ其物件ノ價格ヲ増シタル修繕費ヲ買主ニ拂ハサル可カラス是レ即チ不正ニ利得セサルカ爲メニシテ賣主カ買主ノ娛樂ノ爲メ散シタル費用ヲ償ハサル可カラサルハ是レ賣主ノ所爲ニテ買主ヲ害シタレハナリ

元來法律ノ原則ハ皆混同スルニアラサルモ斯クノ如ク常ニ并立シテ現ハル、モノナリ故コ單ニ不正ノ利得ノ事ノミヲ説キ毫モ損害賠償ノ事ヲ顧ミサルヲ能ハス

諸君ハ右ニ陳述シタル事ヲ聞知シタルヲ以テ必ス賣買コ付テハ既コ博學ナリト妄信ス可カラス余ハ此妄信ナカラシメシカ爲メ左ニ一ノ必要ナル點ヲ指示ス可シ

余ハ右賣買ノ場合ニ於テ賣主ノ善意ナルヤ又ハ惡意ナルヤヲ區別セズ又タ買主ノ善意ナルヤ又ハ惡意ナルヤヲ區別セズ此意志ノ善惡ニ因リ曩コ示シタル問題ノ答辨ハ各々異別ナルカ故裁判官ハ能ク其場合ヲ熟考シ而シテ後チ判決ヲ下サ、ル可カラス之レヲ要スルニ法律上一事ヲ研究スル時ハ先ツ其間種々ノ原則アルヲ知テサル可カラス若シ否ラスシテ唯一事ニミ拘泥シテ決スル時ハ其決定ハ不當ナル可シ

右數多ノ事件ノ連結アルハ皆ニ法律學ノミニ止マラス地理歴史ニ於ケルモ又タ然リ

日本國ハ海中ニ孤立セル一島ナルカ故別段他國ノ地理歴史ヲ見サルモ大ナル差支ナシト雖モ歐洲ニ於テハ之レニ反シ諸國皆接近シ時々戦闘アルカ故能ク諸國ノ地理及ヒ歴史ヲ知ラサル可カラス

今ヤ講義ノ順序ノ論說ヲ結フニ當リ尙ホ一言ス可シ彼ノ游泳ヲ習フニハ二箇ノ方法アリ其一ハ水ノ淺キ所ヨリ漸次深キ所ニ入ルノ方法ニシテ之レニ依テ其術ヲ得ルニハ殆ント一ヶ月ヲ要スルモノナリ其一ハ直チニ深キ所ニ入ルノ方法ニシテ僅カ五分時間ニシテ其術ヲ得ヘシ余ハ本日此第二ノ方法ヲ用ヒ諸君ヲ直チニ深水中ニ投シタルモ幸ニ溺レタル者アルヲ見ス故ニ余ハ爾來時々不意ノ事項ヲ採リ之レヲ講說ス可シ蓋シ其利益巨大ナレハ

余輩カ是レヨリ諸君ニ講說ス可キ所ノモノハ決シテ日本ノ現行法ニアラス是レ決シテ其不完全ナルカ爲メニアラス該法ハ數年ヲ出スシテ變更セラル可キカ故ナリ然レモ若シ他ニ日本現行法ノ講師アラハ是レ實ニ喜フ可キナリ

余輩カ本日ヨリ諸君ニ講說ス可キモノ、基本ハ佛律ナリトス余ハ決シテ佛人ナルカ故ニ該法ヲ採ルニアラス他ニ一大理由アレハナリ

抑モ佛律ノ歐洲諸國ニ尊重セラル、ヤ其自然法ニ出テタルカ故ナリ故ニ佛律ハ秘露印度等何レノ國ニモ之レヲ適用スルヲ得ナリ該法ハ羅馬ノ古法及ヒ佛國往古ノ慣習法ノ略說ニシテ悉ク經驗上採用シタルモノナリ該法ノ自然法ニ出テタルノ証跡ハ之レヲ見ルニ容易ナリ

曩ニ賣買ノ事ヲ説クニ當リ諸君ニ示シタル答辨ハ悉ク自然法ニ  
 據リ決定シタルモノナリ然ルニ佛律モ亦タ賣買ノ事ヲ決スルヤ  
 右ト同一ニシテ之レヲ法典中ニ記載シタリ故ニ該法ハ自然法ニ  
 出テタリト云フモ敢テ不可ナカル可シ且ツ歐洲中法律ヲ制定セ  
 ント欲スル所ノ諸國ハ概テ佛律ヲ採用シ或ル二三ノ國ハ毫モ修  
 正ヲ加ヘス佛律ノ辭句ノマ、至ク之レヲ採用セリ是亦該法ノ自  
 然法タルニ証ナリ  
 彼ノ人事編ノ如キハ各國固有ノモノニシテ各々異別ナルカ故佛  
 律ノ人事編ハ決シテ之レヲ支那又ハ其他ノ國ニ適用スルコト能ハ  
 ス人事編ノ講義ヲ擔當シタル教師ハ必ス諸國ノ人事ノ異同得失  
 ノ諸點ヲ諸君ニ講説セラル可シ  
 佛律ハ各國ニ尊重セラレ、モ又タ非難ス可キ點ナキニ非サルナ

リ故ニ日本民法草案ハ佛律ヲ根據ト爲シタリト雖モ其非難ヲ受  
 ケタル諸項ハ悉ク之レヲ削除シタリ司法省ハ幸ニ余ニ命スルニ  
 日本民法草案ノ講義ヲ以テセラレタルカ故余ハ諸君ニ佛律ヲ改  
 正シタル諸項ヲ説明ス可シ其諸君ヲ利スルヤ決シテ少々ナラザ  
 ル可シ何トナレハ一朝此ノ民法頒布セラレ、アラハ諸君ヨリ他  
 ニ之レヲ熟知スル者アラサル可ケレハナリ  
 右ニ陳述スルカ如ク余ハ是レヨリ佛民法及ヒ日本民法草案ヲ講  
 説ス可シ縱令此草案ハ未ダ完備セスト雖モ方今日々編纂中ナル  
 ナ以テ諸君ハ常ニ其講義ヲ受クルコトヲ得可シ  
 今ヤ諸君ニ指示ス可キモノハ唯タ右ノ二法中何レヨリ説キ始ム  
 可キヤノ一點アルニ余ハ概テ先ツ總則ヲ説キ困難ナル事項ニ  
 當ルモ直チニ法文ヲ朗讀セズ余ノ持論ヲ陳述シタル後、佛蘭西

法律ヲ一見シ而シテ後チ日本草案ニ入ル可シ然レモ又チ時トシ  
テハ諸君ノ脩業ノ便宜ヲ謀リ臨時此順序ヲ變更スルヲアル可シ  
曩ニ説明シタル賣買ノ場合ノ如キハ毫モ法文ヲ見スシテ余ノ持  
論ヲ説示セリ斯クノ如キ方法ニ據ル時ハ諸君ノ利スル所頗ル多  
キヲ信スルナリ

第七回 明治十六年 十月廿九日

一瀬勇三郎 市川亮功 同譯

余ハ本日ヨリ講義ノ本題ニ入ル可シ余ハ本日ニ至ル迄既ニ數回  
ノ講義ヲ費シタルモ右數回ニ於テ陳述シタル所ノモノハ決シテ  
無益ナラス

余ハ前回ノ講義ニ於テ既ニ余ノ講説ス可キ所ノモノハ普通私法

即チ民法ト稱スルモノナルヲ説ケリ今ヤ此民法(佛語「ドローワ」、  
シビール)ナル語ノ根元ニ付少シク説明スル所アル可シ曾テ前回  
ニ於テ諸君ニ説示シタルカ如ク佛語ハ概テ羅甸語ヨリ傳來シタ  
ルモノナリ此語モ又タ羅典ヨリ起リ次テ羅馬ニ移リタルモノナ  
リ

往古羅馬ニ於テハ日本ニ於ケルカ如ク國民ト外國人トノ二種ア  
リ此法ハ單ニ國民ノミニ之レテ適用セリ(佛語「ドローワ」、シビー  
ル)ハ羅馬ノ「シビール」ナル語ヨリ傳來セリ此「シビール」ナル語ハ蓋  
シ國民ノ義ナリ此外國人ハ國民ト同一ノ權利ヲ有セサリシ即チ  
外國人ハ或ル契約ヲ爲スヲ能ハス又タ土地ノ所有者ト爲ルヲ能  
ハサリシヤ略ボ日本ノ外國人ニ於ケル法律ト類似セリ然レモ諸  
君ハ全ク同一ナリト思考ス可カラス蓋シ羅馬ニ於テハ外國人ハ

或ル契約及ヒ所有權ノ事ニ付テハ全ク内國人ト同一ノ權利ヲ有セザリシモ又タ其影ノ如キモノヲ有セリ故ニ其實外國人ハ殆ソド内國人ノ如キ權利ヲ有セリ蓋シ外國人ニ係ル法律ハ實際上ナルヨリモ寧ロ理論上ナリシカ故ナリ

羅馬ニ於テハ又タ此外國人ノ權利ヲ管轄スル或ル特別ノ羅馬人ノ裁判官アリタリ之ヲ要スルコト羅馬ニ居留シタル外國人ハ羅馬ノ裁判權ヲ遵奉シタリ然レモ日本ニ於テハ外國人ハ決シテ日本ノ裁判權ヲ遵奉セサルカ故又タ羅馬ニ居留シタル外國人ト同一ノ權利ヲ與フルコト能ハス余ハ此等ノ事ヲ説クモ決シテ日本ノ法律ヲ非難スルニアラス

今ヤ余ハ直チニ羅馬ニ於テ外國人ノ土地ヲ所有スル場合ニハ如何ナル手續アリタルヤヲ説明ス可ク諸君ハ其眞ニ理論ニノミ止

マリタルコトヲ見ル可シ例ヘハ羅馬ニ甲者ナル外國人アリ(當時羅馬居留ノ外國人ヲ稱シテ「ペレグレン」ト云ヘリ)乙者ナル羅馬人ヨリ不動産ヲ買入ル、モ其所有者ト爲ルコト能ハス是レ法律ノ明文ヲ以テ禁シタル所ノモノナリシト雖モ其實甲者ノ其不動産ヲ占領スルハ實ニ容易ナリシ然レモ法律ハ之レヲ禁スルカ故ニ乙者ハ常ニ所有者ノ名義ヲ存セリ

斯クノ如ク甲者ハ所有者ノ名義ヲ得ルコト能ハサルカ故其位地ハ頗ル危険ナリ何トナレハ第一若シ乙者ヨリ取戻ノ訴ヲ起スニ於テハ甲者ハ之ヲ引渡サ、ル可カラズ第二甲者ノ旅行等ニテ占有セサル間ニ乙者又ハ眞ノ所有者ノ出ル時ハ甲者ハ之レニ故障ヲ申述シ之レヲ取戻スコトハ能ハサレハナリ

右ニ述ヘタルカ如キ危害アルカ故當時「アレツール」ペレグレント

稱シタル特別ノ裁判官ハ左ノ如キ手段ヲ以テ外國人ヲ保護セリ  
 即チ乙者ヨリ取戻サント欲シタル場合ニハ甲者ヲシテ之レヲ詐  
 偽ナリト抗辨セシメ又タ眞ノ所有者ノ出テタル場合ニハ特別ナ  
 ル訴訟手續ヲ以テ買主ヲ保護シタリ故ニ何レノ場合ニ於ケルモ  
 外國人ハ其物件ニ付キ損害ヲ蒙ラス又タ或ル契約ノ場合ニ於ケ  
 ルモ特別ノ裁判官ハ外國人モ尙ホ國民ニ於ケルト同一ノ結果ヲ  
 得ルノ裁判ヲ爲セリ

此外國人ニ適用スル所ノ法律ハ之レヲ「ドロワー、デ、ジャント」稱シ  
 國民ニ適用スルモノヲ「ドロワー、シピール」ト稱セリ

以上説明シタルカ如ク外國人ハ略ホ國民ト同一ノ權利ヲ有シタ  
 ルモ政權ニ至テハ如何ナル方法ヲ以テスルモ外國人ハ之レヲ有  
 スルヲ能ハサリシ現時日本ニ於ケルモ又タ佛蘭西ニ於ケルモ外

國人ハ其國ノ政權ヲ有スルヲ能ハス當時羅馬ニハ政權ノ名稱ナ  
 ク共ニ民法中ノモノトセリ然レモ此民法ハ羅馬人ノ固有ノモノ  
 ナリキ

爾來歐洲諸國羅馬法ヲ採用スルニ及ヒ尙ホ羅馬時代ノ如ク「ドロ  
 ワー、シピール」ノ語ヲ用ヒタリ然レモ羅馬時代ニ在テハ此語ハ單  
 ニ國民ノ法ヲ云フニ止マリシカ歐洲諸國ニ於テハ決シテ然ラス  
 其後チ佛國法典ヲ編纂スルニ當テモ又タ「ドロワー、シピール」ノ語  
 ヲ採用セリ然レモ此「ドロワー、シピール」ハ實ニ國民ノミニ適用ス  
 可キモノニアラス又外國人ニモ之ヲ適用スルヲ得ルナリ  
 佛民法第七條以下第十六條ニ至ル迄ノ諸條ハ民權ヲ有スル事ヲ  
 記載シ其中ノ數箇條ハ外國人ニモ之ヲ適用スルヲ得可キヲヲ説  
 ケリ即チ該法第八條ハ各佛蘭西人ハ民權ヲ有ス可キヲヲ説キ第

十三條ハ皇帝ノ允許ヲ受ケ佛蘭西ニ其住所ヲ定メタル外國人ハ佛蘭西ニ居住スル時間諸般ノ民權ヲ有ス可キヲ説ケリ之レニ反シ佛蘭西ニ住所ヲ有セサル外國人ノ事ニ付テハ第十一條ハ其外國人ノ本國ト佛蘭西ト結ヒタル條約ニ因リ佛人ト同一ナル民權ヲ佛國ニ有スルヲ説ケリ故ニ若シ兩國ニ條約ナキ時ハ其外國人ハ民權ヲ有セサルモノトス

右ノ數條ニ據レハ立法者ノ外國人ヲ待遇スルヤ甚タ嚴重ナルカ如シ然レニ第千八百十七年ニ至リ此等ノ法律ヲ改良シタルカ故現時ノ法律ハ決シテ苛酷ナラス人事編ノ講師ハ定メテ此等ノ事ヲ諸君ニ講説ス可シ

今日佛國ニ於テ「ドロワー、シビール」即チ民法ト譯スルモノト稱スル所ノモノハ即チ私法「ドロワー、プリベ」ナルカ故此法ヲ和譯シ

テ民法ト稱スルハ其當ヲ得サルカ如シ何トナレハ日本ニ居住スル外國人ト雖モ尙ホ此法ノ適用ヲ受クレハナリ然レモ諸君ハ此民法ノ語ニ私法ノ意義ヲ附着スル時ハ遂ニ民法ナル語ノ不穩當ヲ怪マサルニ至ル可シ

余ハ前回ノ講義ニ於テ「ドロワー」ナル語ニ二箇ノ意義アルヲ説ケリ其一ハ法律コシテ其二ハ義務ニ對立スル利益即チ權利ナリ余カ今日ヨリ諸君ニ講義ヲ爲スニ當リ最モ研究ス可キ所ノモノハ此權利ナリトス蓋シ諸君ニ對シ人ノ本務ヲ説ク時ハ必ス之レニ對立スル人ノ權利ヲ説カサル可カラサレハナリ例ヘハ子ノ本務ヲ説ク時ハ其父ノ權利ヲ見サル可カラス婦ノ本務ヲ説ク時ハ其夫ノ權利ヲ見サル可カラス又タ吾人カ他人ノ所有權ヲ重セサル可カラサルノ本務ヲ説ク時ハ其他人ノ權利ヲ併説セサル可カ

テス又タ負債主ノ本務ヲ説ク時ハ之レニ對シ義務ノ履行ヲ要求スルヲ得ヘキ債主ノ權利ヲ併説セサル可カラス  
 右ニ説明スルカ如クナルヲ以テ縱令權利ヨリ説キ始ムルモ又ハ義務ヨリ説キ始ムルモ敢テ差別アルヲナシ然レモ通常人ノ行フ所ノ慣習ハ所有權ニ關スル時ハ先ツ所有者ノ權利ヲ學ヒタル後チ其義務ニ移リ負債ノ場合ニ於テハ負債主ノ義務ヲ學ヒタル後チ其債主ノ權利ニ移ルモノトス  
 右二箇ノ權利ハ爾來三年間余ノ諸君ト共ニ研究ス可キモノナリ蓋シ私法ハ人民間ノ利益ヲ規定スルニ止マルカ故親族ノ事ヲ除ク時ハ唯々此二種ノ權利即チ所有權ト債主權トノ二アルノミ  
 此等二種ノ利益ハ一語ヲ以テ之レヲ述フルヲ得可シ其語タルヤ「パトソモワース」(家産ノ義)コシテ吾人ノ財産ノ總体ヲ云フモノ

ナリ此佛語ノ本義ハ祖先ヨリ傳來シタル財産ノ總体ト云フコアリ然レモ吾人ハ縱令未タ両親ノ存スルアルモ既ニ幾分ノ家産ヲ有スルナリ

吾人ハ「パトリモワース」ナル語ヨリモ寧ロ屢次「ビヤン」(財産ノ義)ナル語ヲ用ユルナリ茲ニ余輩カ「ビヤン」ト稱スル所ノモノハ即チ權利ナリ此權利ニ二種アリ曰ク物上權曰ク對人權是レナリ  
 凡ソ吾人ノ既ニ獲得シタル物件上ニ存在スル所ノ權利ハ之ヲ所有權ト稱スルモ此語ニテハ未タ盡サ、ル所アリ(余ハ茲ニ之レヲ細説セサル可シ)吾人ハ縱令數多ノ動産物及ヒ不動産物ヲ有スルモ又ハ其少數ヲ有スルモ其所有權ニ至テハ常ニ同一ナリ此權利ヲ稱シテ物權(ドロワー、レニール)又ハ物上權ト云フ此權利ヲ指示セント欲スル時ハ唯々己レト己レニ屬スル物件ノ名トヲ説クナリ



以テ足レリトスルナリ例ヘハ余ノ書籍余ノ家屋等ノ如ク語中毫  
モ他人ヲ交ヘス故ニ例ヘハ余若シ此田野ハ余ニ屬スルモノナリ  
ト云フ時ハ余ヲ除クノ外何人モ皆此田野ヨリ排除セテ充分此  
權利ヲ重ンセシムルノ意ヲ包含スルナリ

今ヤ第二ノ場合即チ對人權ノ場合ヲ説明ス可シ例ヘハ甲者アリ  
百圓ノ金額ヲ乙者ニ貸與ヘタリ此場合ニハ乙者ハ決シテ其金額  
ノ所有權ヲ有スルニアラサルカ故甲者ハ期限ニ至リ其返濟ヲ乙  
者ニ要求スルヲ得ルナリ此場合ニ於テ若シ甲者其權利ヲ指示  
セント欲スル時ハ余ハ某者ニ對シ權利ヲ有スト云ハサル可カラ  
ス余ハ百圓ニ付キ權利ヲ有スト云フヲ能ハス之ヲ要スルニ此場  
合ニハ三箇ノモノヲ説カサル可カラス第一本人即チ權利者ノ姓  
名第二金額第三義務者ノ姓名是レナリ此義務者ノ姓名ハ必ス之

レヲ明言スルヲ怠ル勿レ蓋シ權利者ハ此物ノミニ權利ヲ有ス  
レハナリ此權利ハ是レ人<sup>〇</sup>權<sup>〇</sup>（ドロワト、ベルソッチール）又ハ對人<sup>〇</sup>權<sup>〇</sup>ト  
稱スル所ノ者ナリ

余ハ右ニ貸借ノ場合ヲ假想シタルモ尙ホ他ニ數多ノ場合ヲ例示  
シ對人權ノ事ヲ説明スルヲ得可シ例ヘハ余ハ一ノ物件ヲ某者  
ニ賣渡セリ（即チ賣買ノ場合ナリ）然ルニ某者余ニ其代金ヲ拂ハサ  
ル時ハ余ハ此者ニ對シ對人權ヲ以テ其代金ヲ要求スルヲ得可  
シ又タ余ハ他人ノ爲メ或ル勞力ヲ爲セリ（即チ勞力ノ賃借ノ場合  
ナリ）然ル時ハ余ハ此他人ニ對シ對人權ヲ有スルモノトス  
又タ時トシテハ他人ノ過失ニ因リ此對人權ヲ生スルヲアリ然ル  
時ハ此過失ヲ受ケタル者ハ賠償ヲ拂ハシムルヲ得可シ  
何レノ國タルヲ問ハス最モ富裕ナル身分ノ者モ又最モ貧困ナル

身分ノ者モ財産トシテ有スル所ノモノハ唯タ右ニ説明シタルニ  
 權ニ止マルノミ例ヘハ三井ハ日本第一ノ富豪ナルモ唯タ此二權  
 ナ有スルノミ余ハ聞知スル所ニ據レハ三井ハ商業運送事務及ヒ  
 銀行ノ三事業ヲ兼行スルカ如シ故ニ此三業ニ付キ物權及ヒ人權  
 ノ二權アルヲ説明セシ先ツ其商業ニ供シタル物件ハ悉ク三  
 井ニ屬スルモノナリ然レモ買主ノ未タ代金ヲ拂ハサル物件多數  
 ナル可キカ故三井ハ此等ノ買主ニ對シ其代金ヲ要求スルノ債主  
 權即チ人權ヲ有ス可シ又タ銀行ノ事業ニ於ケルモ尙ホ同一ナリ  
 蓋シ該銀行ヨリ發布シタル數多ノ手形ハ皆三井ニ屬スルモノナ  
 リ加之該銀行ハ數多ノ貸金証書ヲ有スルカ故是レ他人ニ對シ人  
 權ヲ有スルナリ又タ其運送會社ニ入ル時ハ余ハ數頭ノ馬及ヒ夥  
 多ノ運送器機ヲ見ルナリ此等ノモノハ皆三井ニ屬スルモノナリ

然レモ其運送中未タ代金ヲ受取ラサルモノアル可キカ故會社ハ  
 對人權ヲ有スルナリ

右ニ説明スルカ如ク最モ富豪ナル三井ノ有スル所ノ財産ト雖モ  
 此二權ニ外ナラス然レモ諸君ハ又タ此等ノ豪商ト雖モ尙ホ三ヶ  
 月又ハ四ヶ月ノ期限ニテ返済ス可キ負債アルヲ想像ス可シ蓋  
 シ其商品モ悉ク自己ニ屬セサル可ケレハナリ此負債ハ決シテ家  
 産ニアラス何トナレハ負債ハ却テ其家産ヲ減少スレハナリ故ニ  
 三井ヨリ他人ニ返済ス可キ所ノモノハ又タ其他人ノ家産ナリト  
 ス此等ノ豪商ハ又タ公債証書ノ如ク諸方ニ流通セル數多ノ証書  
 ナ有スルカ故他日此証書ヲ有スル者ニ金額ヲ返済セサル可カラ  
 ス

右ニ説キ來リタル所ノ物權ハ其人ニ直接ナルモ人權ニ至テハ間

接ナリ余ハ爰ニ既ニ物權ニ付テハ先ツ其權利ヲ有スル者ノ事ヲ研究シ人權ニ付テハ先ツ其義務アル者ノ事ヲ研究セサル可カラサルヲ説ケリ

蓋シ物權ニ付テハ先ツ之ヲ有スル者ノ權利起リタル後チニアラサレハ他人ノ義務生セサレハナリ之レニ反シ人權ニ至テハ先ツ義務者ト爲リタルヲ以テ他人其權利者ト爲ルナリ故ニ第一ノ場合ニハ先ツ權利者ヲ説キ第二ノ場合ニハ先ツ義務者ヲ説キ併セテ其裏面ノ義務及ヒ權利ヲ説クハ實ニ正當ナリ故ニ余ハ爾來常ニ此普通ノ方法ニ則ル可シ

佛民法第一編ハ人事ヲ規定シ第二編ハ所有權及ヒ其他ノ物上權ヲ規定セリ日本民法草案モ又々此順序ニ從ヒ第二編ニ於テ財產ノ事ヲ制定セリ其第一編ハ未ダ編纂セラレス佛民法ハ第三編ニ

至リ人權ノ事ヲ規定シタルモ日本草案ハ其ニ第二編中ニ之レヲ記載セリ

余ハ物權ノ事ヲ説明スル以前ニ先ツ物權ト人權トノ區別ノ利益ヲ講説ス可シ

第八講 明治十六年  
十月三十一日

一瀬勇三郎  
市川 亮功 同譯

余ハ前回ノ講義ニ於テ權利ニ物上權及ヒ對人權ノ二種アリ物上權ハ吾人ト物件トノ直接ノ關係ヲ設定シ對人權ハ一ノ物件ヲ得ルカ爲メ吾人ト他人トノ關係ヲ設定スルモノナルヲ講説セリ

余ハ民法ノ講義ニ入ルノ前ニ先ツ此區別ニ著大ナル實利アルヲ説明ス可シ蓋シ物上權ト云フモ又々對人權ト云フモ之レノミニ

テハ單ニ理論タルニ過キサレハナリ余ハ爾來屢次此二權ノ事ヲ  
説カサル可カラサルカ故諸君ハ又タ能ク其利益ヲ知ラサル可カ  
ラス

物上權ニ付テハ數多ノ種類アリト雖モ余ハ所有權ノ場合ヲ例示  
ス可シ是レ所有權ハ物上權中最モ著明ナルモノニシテ且ツ最モ  
了解シ易キモノナレハナリ對人權ニ至テハ其原因ハ各々異ナリ  
ト雖モ唯タ一種類アルノミ

右區別ノ第一ノ利益ハ最モ容易ニシテ且ツ最モ簡短ナルモノナ  
リ例ヘハ某者一ノ物件ヲ所有スル時ハ此物件ニ付キ處分權ヲ有  
スルカ故總テ己レノ欲スル所ノ事ヲ爲スヲ得ルモ對人權ハ或  
ル人ニ對スル權利ナルカ故斯クノ如キ事ヲ爲スヲ能ハス蓋シ某  
者其物件ヲ占領スル時ハ其物件ト權利トノ合同アルカ故某者ハ

其物ヲ破壊シ又ハ之レヲ贈與スルヲ得ルモ對人權ニ至テハ唯  
タ其債主權ヲ自由ニスルヲ得ルノミ即チ權利者ハ其債主權ヲ  
釋放スルヲ得可ク又タ物上權ノ場合ノ如ク其物件ヲ賣拂フコ  
能ハサルモ其權利ハ之レヲ賣拂フヲ得可ク又タ之レヲ贈與ス  
ルヲ得可シ之レヲ要スルニ債主權ノ場合ニハ唯タ其權利ヲ自  
由ニスルヲ得ルノミ左ニ一例ヲ示サン

甲者アリ已レ所有權ヲ有スル所ノ米五石ヲ乙者ニ附托セリ此乙  
者ハ又タ甲者ノ義務者ニシテ曾テ米十石ヲ借受ケタル者ナリ此  
場合ニ於テハ附托及ヒ貸與ノ目的物ハ共ニ米ニシテ且ツ附托ヲ  
受ケタル者及ヒ義務者ハ共ニ同人ナリト雖モ附托米ヲ返還セシ  
ムル時ノ規則ハ貸與米ヲ返濟セシムル時ノ規則ト異ナリ例ヘハ  
右ノ受托者即チ乙者盜難ニ罹リ十五石ノ米ヲ竊取セラレ又ハ之

レテ他人ニ賣渡シ買主モ又タ惡意ヲ以テ之レヲ買入レタル時ハ  
 甲者ハ此買主ニ對シ曾テ乙者ニ附托シタル米五石ヲ要求スルコ  
 テ得ルモ其乙者ニ貸渡シタル十石ニ至テハ之レヲ要求スルコ  
 ハス蓋シ甲者ノ附托シタル五石ハ何人ノ手ニ移ルモ常ニ已レニ  
 屬スルカ故甲者ハ之レヲ取戻スコトヲ得ルナリ然レモ十石ニ至テ  
 ハ甲者ハ未タ所有權ヲ有セサルカ故何人ニモ之レヲ要求スルコ  
 能ハス之レヲ要スルニ彼ノ五石ニ付テハ甲者ハ追從權ヲ有スル  
 モ十石ニ至テハ之レアルコトナシ

左ニ不動産ノ一例ヲ擧ケ右ニ説明シタル追從權ヲ適用ス可シ例  
 へハ某者アリ一ノ土地ヲ所有セリ然ルニ内亂アリタルカ爲メ一  
 度其土地ヲ失ヘリ然レモ其内亂鎮定シタル時ハ其土地ノ何人ノ  
 手ニ移リタルモ某者ハ之レヲ取戻スコトヲ得ヘシ然レモ若シ其土

地債主權ニ係リタルモノナル時ハ之レヲ取戻スコト能ハス

今ヤ前ノ附托ノ例ニ復リ尙ホ一ノ新利益アルコトヲ説ク可シ例へ  
 ハ甲者ノ受托者ナル乙者ハ米商ニシテ頗ル正直ナル者ナリシモ  
 不幸ニシテ家資分散ヲ爲スニ陥リタリ然ル時ハ乙者ニ對シ甲者  
 ノ位地ハ如何ナル可キヤ凡ソ人ノ家資分散ニ陷ル時ハ分散人  
 ハ毫モ其財產ヲ所分スルコト能ハス其算計ヲ爲スハ裁判所ノ管理  
 人ニ在リ當時日本ニ於テハ此事ハ未タ全ク規定セラレスト雖モ  
 其完備スルヤ必ス近キニ在ル可シ而今佛國ニ於ケルカ如ク充分  
 整頓シタリト假想セシニ縱令此米商ノ倉庫中ニ尙ホ千石ノ米ア  
 リト雖モ甲者ハ貸與ヘタル十石ト附托シタル五石トヲ合シテ取  
 戻スコト能ハス唯タ附托シタル五石ハ確定スルカ故直チニ之レヲ  
 持去ルコトヲ得可シ縱令爭論アルモ裁判所ハ必ス甲者ヲシテ之ヲ

取戻サシム可シ故ニ又タ時トシテハ此追従權ヲ稱シテ取戻シノ權ト稱ス

右ニ説明スルカ如ク甲者ヨリ乙者ニ貸與ヘタル米十石ハ其千石中ヨリ引去ルヲ能ハス何トナレハ乙者ニハ甲者ノ外尙ホ數多ノ權利者アル可キカ故ナリ故ニ甲者モ又タ他ノ權利者ト共ニ之レヲ分配シ各々其貸高ニ比例シテ損失ヲ受ケサル可カラズ此場合ニ於テハ他人ト雖モ追従權ヲ行フヲ能ハス衆權利者立會ノ上其債主權ヲ執行スルモノトス

余ハ右ニ米ノ例ヲ示シタルモ又タ馬又ハ馬車等ノ例ヲ擧グルヲ得ルナリ此場合ニ於ケルモ甲者ハ尙ホ曾テ附托シタル其馬又ハ馬車ヲ取戻スヲ得ルモノトス今ヤ更ニ甲者ノ金錢ヲ附托シタル場合ヲ見ル可シ

曩ニ例示シタル米ノ附托物ノ場合ニハ其俵上ニ記標アリタルヲ假想シタリ金錢ノ附托ノ場合ニ於ケルモ尙ホ右ノ如ク若シ之レヲ盛リタル嚢上ニ記標アル時ハ是レ一ノ確定物ナルカ故容易ニ之レヲ取戻スヲ得可シ然レモ若シ之レヲ嚢ニ盛ラサル時ハ甲者ハ追従權ヲ以テ之レヲ取戻スヲ能ハス蓋シ馬若クハ馬車ハ縱令記標ナキモ確定物ナルカ故決シテ他ノ馬等ト混同セスト雖モ封ヲ爲サ、ル金錢ニ至テハ量定物ニシテ確定物ナラサルカ故ナリ故ニ若シ受托者其金嚢ヲ破リ確定物ヲ量定物ニ變シタル時ハ附托者ハ單ニ受托者ノ權利者タルニ過キス決シテ附托者コアラズ

尙ホ左ニ附托ノ場合ヲ採リ物權ト人權トノ區別ノ利益ヲ示ス可シ例ニハ債主權アル米十石及ヒ附托ノ米五石火災ニ罹リ燒失シ

タリ此場合ニ於テハ火災ハ天災ナルヲ以テ受托者ハ曾テ附托ヲ受ケタル米五石ヲ返還スルニ及ハス然レモ十石ノ米ニ付テハ其義務ヲ免カレサルモノトス

余ハ右ニ四箇ノ利益ヲ説明シ之レヲ以テ最早充分ナリト思考スルナリ此他尙ホ一ノ利益アリト雖モ頗ル困難ナル事柄ナルヲ以テ本日ハ之レヲ説明セサル可シ諸君ハ既ニ物權及ヒ人權ハ當コ文學上ノ區別アルノミナラス又タ其利益ノ各々異ナルヲ知ラレタル可シ此差異ハ絶ヘテ立法者ノ私見ナラサルカ故佛國ニ於ケルカ如ク又タ之レヲ日本ニ採用ス可シ  
右ノ區別ハ時ノ過去タルト未來タルトヲ問ヘス何レノ時代ニモ之レアルナリ蓋シ此區別ハ事物ノ常性即チ自然法ヨリ起リタレハナリ

曩ニ既ニ説明シタルカ如ク物權及ヒ人權ハ吾人ノ家産即チ財産ヲ組成スルモノナリ余ハ又タ既ニ豪富者ノ財産モ尙ホ此二權ニ過キサルヲ説ケリ然レモ諸君ハ唯タ此二權ノミナルヲ聞知シ法律學ハ實ニ容易ナリト思考ス可カラス蓋シ此權利ニハ數多ノ小區別アリテ頗ル煩雜ナレハナリ彼ノ地理學ノ如キモ海洋ト陸地トノ二大區別アルニ過キスト雖モ決シテ容易ナルモノニアラス

今ヤ左ニ佛民法ノ順序ヲ示ス可シ佛民法ハ之レヲ分テ第一編人事第二編財産第三編財産所有ヲ得ル種々ノ方法ノ三編トセリ然レモ余ハ曩ニ既ニ第一編ハ余ノ關スル所ノモノナラサルヲ説ケリ然ラハ余ノ研究ス可キ所ノモノハ唯タ第二編及ヒ第三編アルノミ然レモ財産ヲ得ル種々ノ方法ハ常ニ財産ト共ニ併立セザ

3000  
41

四二一

40524

ル可カラサルカ故之レヲ財産篇中ニ記入シテ一編ト爲スヲ得  
可シ

正誤

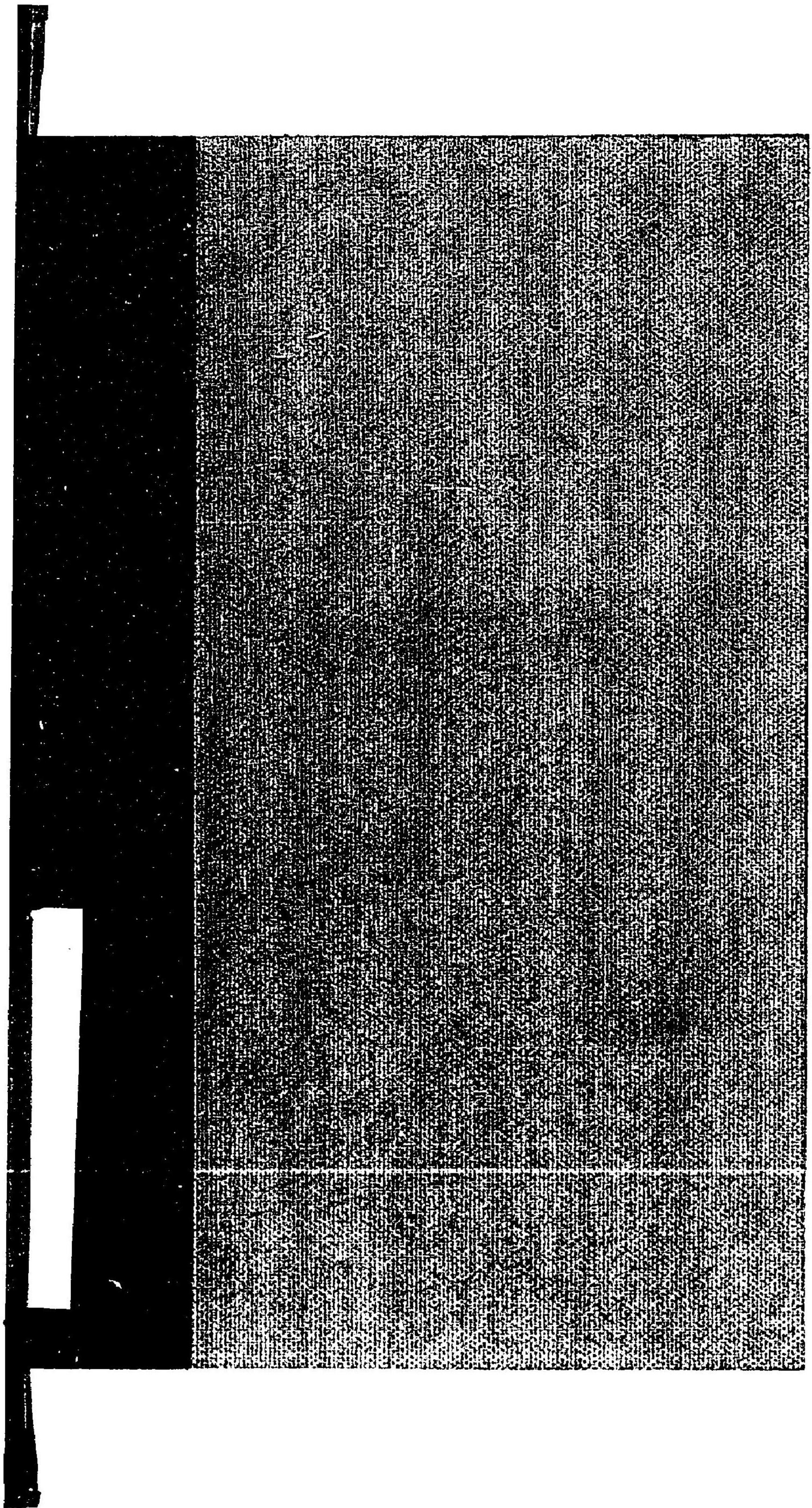
第四丁	十行	「ユダシス」ハ「ユダンス」
第十八丁	二行	「上ノ時本務」ハ「上ノ本務」
第四十一丁	十行	「例示セシ」ハ「例示セン」
第四十七丁	初行	「未タ元分ナル」ハ「未タ充分ナル」
第四十九丁	十行	「ハサル」ハナリ「ハサレ」ハナリ
第五十二丁	二行	「道律上」ハ「道徳上」
同丁	五行	「法律ノ」ハ「法者ノ」
第五十七丁	二行	「犯シクル」ハ「犯シタル」
第六十三丁	二行	「スル特」ハ「スル時」ハ







111  
111



特70

190

法律大意講義

国立国会図書館

030115-000-9

特70-190

法律大意講義 第2回

ボワソナード/述

M16

BBA-0572

